

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目
講義名	[00016] 歴史学				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらい。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	歴史学とはどういう学問か				
第2回	史実と伝承				
第3回	日本史の時代区分				
第4回	史（資）料とは				
第5回	旧暦と新暦				
第6回	日本の元号（1）				
第7回	日本の元号（2）				
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）				
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）				
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）				
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）				
第12回	調べ学修についての発表				
第13回	歴史散策1				
第14回	歴史散策2				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	種類 集中
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
<b>【実務経験】</b>					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期間	通年（1回）	単位数	選択（30）以下		種類 認定
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
交換留学生の単位を認定します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回					
<b>【教科書・参考書】</b>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目		
講義名	[00037] サービスラーニング						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？						
第2回	活動計画の構成と計画書の作成						
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）						
第4回	地域活動						
第5回	地域活動						
第6回	地域活動						
第7回	地域活動						
第8回	地域活動						
第9回	地域活動						
第10回	地域活動						
第11回	地域活動						
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし						
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正						
第14回	解決案の事業者への提案						
第15回	事後報告会と全体の振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
<b>【実務経験】</b>							
元身延町教育委員							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	--------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。  
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

**【成績評価（方法・基準）】**

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

**【教科書・参考書】**

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

**【学生へのメッセージ】**

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目  
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

**【オフィスアワー】**

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

**【実務経験】**

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）		種 類
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかんして20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は特になし。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

**【オフィスアワー】**

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

**【実務経験】**

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00509] デス・エデュケーション				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
講義毎のレポート100%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）				
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）				
第3回	倫理学（自由主義の原則）				
第4回	生殖医療の現状 1				
第5回	生殖医療の現状 2				
第6回	終末期医療の現状 1				
第7回	終末期医療の現状 2				
第8回	臨死体験のワーク				
第9回	日蓮聖人の終末期				
第10回	精神疾患について（自死、自殺）				
第11回	グリーンワーク				
第12回	傾聴				
第13回	終活、事前指示				
第14回	医療現場における宗教者				
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
積極的に授業に参加することを望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後に教室にて対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
腎臓内科医					



対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00510] 総合仏教				
期間	通年（1回）		単位数	必修（2）	種類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	学務委員長				
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[00531] 発達心理学
-----	---------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、本授業では人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

発達心理学は、人の受精から老年期までの生涯にわたる個人的発達について研究する学問である。この授業では、生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。この授業を受講することで、人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか、理解することが可能である。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができるような授業を行う。必要に応じて、ディスカッションも行う予定である。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるようにする。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学習では、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってくること。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション / 発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方
第2回	生命の芽生えから誕生まで
第3回	赤ちゃんがとらえる世界
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達
第5回	愛着理論 愛着関係の成立と個人差 / 小テスト1
第6回	ことば遊びの発達
第7回	かかわりの中で育まれる自己
第8回	仲間の中での育ち
第9回	学童期の発達 学校での学び / 小テスト2
第10回	思春期・青年期の発達
第11回	大人になるために - 親になること働くこと
第12回	かかわりの中で成熟する
第13回	老いることと発達 人生を振り返る
第14回	発達におけるつまずきへの理解 / 小テスト3
第15回	まとめ：授業の振り返りとディスカッション

**【教科書・参考書】**

教科書：『問いからはじめる発達心理学 - 生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著（有斐閣ストゥディア）2014年、参考書：『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子・菅野幸恵・塚田城みちる著（新曜社）2004年、『実践・発達心理学第2版』青木紀久代編（みらい）2017年、そのほか、適宜授業中に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習して欲しいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

**【オフィスアワー】**

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

**【実務経験】**

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00532] 仏教学概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
この授業では、仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『俱舎論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義では、仏教思想形成する基礎知識を理解することを目的とする。これらの用語を理解することにより、仏教学のさらなる知識を習得できるようになるであろう。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舎論』を用いて講義を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	小乗と大乘について			
第3回	アビダルマについて			
第4回	『俱舎論』とヴァスバンドゥ			
第5回	存在の基盤について			
第6回	認識について			
第7回	存在について			
第8回	世界の形成について			
第9回	行為について			
第10回	煩悩について			
第11回	修行階梯について			
第12回	智について			
第13回	禅定について			
第14回	我について			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：世親（ヴァスバンドゥ）著『阿毘達磨俱舎論』（大正新修大蔵経、No.1558）。				
参考書：桜部建『俱舎論』（大蔵出版）1981年、桜部建『存在の分析』（角川文庫）1996年、青原令知編『唯識 絶ゆることなき法の流れ』（自分照出版）2015年。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 『俱舎論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学習内容を学んでもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00537] 法華経概論			
期 間	前期（15回）	単位数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
法華経の概要について学修します。成立、原典、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本授業では、法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えをとおして大乘仏教の基本的思想や日本仏教の原点および天台大師・伝教大師・日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト（80％）、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20％)を基準として総合的に評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	法華経の成立			
第2回	法華経の原典			
第3回	法華経の構成			
第4回	法華経説法の場所			
第5回	法華経説法の開始			
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ			
第7回	法華経迹門の思想			
第8回	法華経本門の思想			
第9回	法華経の開会思想			
第10回	法華経の題号喩			
第11回	法華経品中の譬喩			
第12回	法華経の菩薩思想			
第13回	法華経の娑婆即寂光思想			
第14回	法華経の世出不二思想			
第15回	法華経学修のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座7』田村芳朗・藤井教公著（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目			専門基礎科目
講義名	[00538] 法華経概論			
期間	後期 (15回)	単位数	選択 (2)	種類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	庵谷 行亨	オオタニ ギョウコウ		otani gyoko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ、虚空会の思想や起顕竟の法門など、法華経各品の基本的事項について概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>				
本授業では、法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。				
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>				
法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。				
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>				
学力確認テスト (80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢 (20%) を基準として総合的に評価します。				
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>				
第1回	序品第一・方便品第二			
第2回	譬喩品第三・信解品第四			
第3回	薬草喩品第五・授記品第六			
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八			
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十			
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二			
第7回	勸持品第十三・安樂行品第十四			
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六			
第9回	分別功德品第十七・隨喜功德品第十八			
第10回	法師功德品第十九・常不輕菩薩品第二十			
第11回	如来神力品第二十一・囑累品第二十二			
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四			
第13回	觀世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六			
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八			
第15回	法華経全体のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨著 (大法輪閣) 2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編 (平楽寺書店) 1924年、『法華経・仏典講座 7』田村芳朗・藤井教公著 (大蔵出版) 1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人宗長寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目		専門基礎科目		
講義名	[00539] 宗学概論				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
宗学とは何か、宗学を学ぶ意義を確認し、宗学の基本事項となる五義や三大秘法などの教義を概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
宗学とは何であるか、その意義を認識し、宗学の内容を体系的に理解し自分の言葉で説明することができる力を身につけ、自らが主体的に実践していく素地を築くことを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
宗学とは何であるのか、なぜ学ぶのかということをしっかり抑え、その上で、宗祖の教えについて講義を行います。授業の中でリアクションペーパーを用いて毎回自分の意見等を書いてもらうことと、口頭で質問をし、受講生が自らの考えを発表、ディスカッションをおこなっていきます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
試験(80%)、平常点(20%)。平常点はリアクションペーパーの内容、授業内における質問等によって評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	宗学概論の意義				
第2回	宗祖 その1				
第3回	宗祖 その2				
第4回	体系（相承）				
第5回	五義 その1				
第6回	五義 その2				
第7回	三大秘法 その1				
第8回	三大秘法 その2				
第9回	信行				
第10回	成仏				
第11回	霊山往詣				
第12回	摂折				
第13回	祈祷				
第14回	僧俗				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：なし。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編(日蓮宗新聞社)1989年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2003年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編(東京堂出版)1981年等。その他、授業の中で紹介していきます。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。自分なりにまとめてわかりやすいノートを作成し、授業内で理解できない事柄は必ず図書館などで納得できるまで調べて下さい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日 1 時限目と水曜日 2 時限目					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05132] 教職論			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
教師の仕事とは何か、教員養成制度、教師の専門性と職務内容、子ども、同僚、保護者、地域との関係などについて、概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
この授業では、まず教職の意義について学び、教師の職務、教職の専門性、同僚との関係、最後に現在教師が直面する実践上の課題を検討する。教師の仕事、現代の教師が直面する課題を理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教科書は『新しい時代の教職入門』を使用するが、適宜 授業資料を配布し参考文献を紹介する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分：指示されたテキストをあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートをまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション 教職とは何か			
第2回	教師の日常世界			
第3回	子どもをつかむことの意義			
第4回	授業をつくる			
第5回	授業から学ぶ			
第6回	カリキュラムをつくる			
第7回	生活指導の課題			
第8回	戦後教育史のなかの教師（1）			
第9回	同上（2）			
第10回	教師のライフステージ			
第11回	学校づくり			
第12回	生徒とともに学校をつくる			
第13回	教師の懲戒権と体罰			
第14回	教職の専門性			
第15回	教育改革と教師 まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
参考書 無着成恭編『山びこ学校』（岩波文庫）、今橋盛勝・牧証名編『教師の懲戒と体罰』エイデル研究所、教育科学研究会 学校部会編『子ども観の転換と学校づくり』（国土社）、尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門』（有斐閣）、柴田義松・山崎準二編『教職入門』（学文社）				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05133] 教育課程論			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
教育課程とは何か、その原理、歴史の変遷、現代の学校が直面する課題について、概説します。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
教育課程とは、学校において教師集団が行う教育活動の計画であり、子どもの人格形成について学校が描く設計図である。授業では、戦後の教育課程の変化を理論的歴史的に検討し、その後個別の課題について学んでいく。教育課程の基礎理論と変遷を学び、現在直面する課題について理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教科書は最初の授業時に指示する。また適宜資料を配布し参考文献を紹介する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
レポートを含む学力確認テスト70%、授業への取組の姿勢30%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション。教育課程とは何か			
第2回	教育課程、学習指導要領の法令上の位置づけ			
第3回	学習指導要領の変遷（1）1947年版から1958年版			
第4回	学習指導要領の変遷（2）1968年版から1989年版			
第5回	学習指導要領の変遷（3）1998年版から2008年版			
第6回	現行学習指導要領の特徴			
第7回	教育課程の構成要件			
第8回	教育課程の編成原理			
第9回	各教科・領域における横断的指導の理論			
第10回	各教科・領域における横断的指導の実際			
第11回	カリキュラムマネジメントの意義と実際			
第12回	カリキュラム評価の基本的考え方			
第13回	教育課程の現代的課題（1）市民性の教育			
第14回	教育課程の現代的課題（2）環境教育			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書 田中耕治ほか編著『新しい時代の教育課程第4版』（有斐閣 2018年）を使用する。このほかに適宜資料を配布する。文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版を参考資料として使用する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05134] 特別活動の研究【平成30年度生まで】				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
特別教育活動とは何か、その理論、制度上の位置づけと変遷、生徒の自治能力を育む実践的課題について、概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
学習指導要領では、中学・高校の教育課程を構成する教育活動のうち、教科指導、道徳、総合的学習以外の領域を特別活動と呼んでいる。授業では、子どもの自律性と自治的能力をどう育成するかということに焦点を当て、これまでの議論を整理しながら、実践的課題について検討していく。特別活動の歴史的変遷と現代直面する課題と主要な実践について理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学習120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。現代における特別活動の意義				
第2回	日本教育史における特別活動の歩み（1）戦前				
第3回	日本教育史における特別活動の歩み（2）戦後				
第4回	学級活動と学級集団づくり				
第5回	生徒会活動と自治能力の育成				
第6回	クラブ活動				
第7回	学校行事の意義とその内容（1）入学式、卒業式				
第8回	学校行事の意義とその内容（2）修学旅行				
第9回	学校行事の意義とその内容（3）文化祭				
第10回	学校行事の意義とその内容（4）体育祭				
第11回	長野・辰野高校学校三者会議の実践				
第12回	長野・軽井沢高校「軽高会議」の実践				
第13回	修学旅行の企画づくり（1）				
第14回	修学旅行の企画づくり（2）				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
竹内常一 『おとなが子どもと出会うとき、子どもが世界を立ちあげるとき』（桜井書店）、浦和商業高校定時制四者協議会編 『この学校がオレを変えた』（ふきのとう書房）、宮下与兵衛 『学校を変える生徒たち』（かもがわ出版）、宮下聡 『中学生の失敗する権利、責任をとる体験』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05135] 道德教育の研究【平成30年度生まで】
-----	----------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	櫻井 勲	サクライ カン	sakurai kan
-----	------	---------	-------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

道德教育とは何か。人が道徳的に行為するとはどのようなことか。本科目ではこうした原理的な問いを大切にしながら道德教育への理解を深められるよう、その理論や歴史を概説するとともに、「学習指導要領」や「道德科」教材の研究、受講生による模擬授業とその検討などを行う。キーワード：道德教育、学習指導要領、模擬授業

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

上記のような授業内容を学習することにより、道德教育の目標や内容、指導計画などを理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業などを通して、実践的な指導力を身に付けることを到達目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングの一環としての小グループによる意見交換、模擬授業などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介し、コメントする。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習がこれに劣らず重要である。各回の授業の復習のほか、テキストや配布プリントの予習、さらに学習指導案の作成、模擬授業の準備などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる（各回120分以上の事前・事後学習を行うこと）。

**【成績評価（方法・基準）】**

学習指導案・模擬授業等の課題の達成度（40％）と学力確認テスト（60％）により評価する。学力確認テストでは、道德教育に関する基本的知識を獲得し、的確な言葉で道德教育について論述することができたかを評価基準とする。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	開講にあたって（ガイダンス、導入の「道德」クイズ）
第2回	道德をどう捉えるか 道德の概念
第3回	道德性の発達と教育をめぐる理論
第4回	道德教育の歴史（1）西洋
第5回	道德教育の歴史（2）日本
第6回	現代社会の道德教育課題（いじめ・情報モラルなど）【ICT機器の活用】
第7回	宗教教育と道德教育
第8回	「学習指導要領」にみる道德教育【グループワーク】
第9回	学校の教育活動全体を通じての道德教育
第10回	「特別の教科 道德」（道德科）の学習指導案
第11回	道德科の学習評価
第12回	道德教育教材の研究
第13回	道德教育実践の研究【映像教材の活用】
第14回	模擬授業の実施とふり返り【プレゼンテーション】
第15回	学力確認テストと授業のまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：『道德教育の批判と創造』藤田昌士・奥平康照監修（エイデル研究所）2019年。参考書：『道德教育 その歴史・現状・課題』藤田昌士著（エイデル研究所）1985年、『道德教育の理論と方法』羽田積男・関川悦雄編（弘文堂）2016年、『中学校学習指導要領』（文部科学省）2017年。

**【学生へのメッセージ】**

受講生と担当講師、また受講生相互間での積極的な意見交換を通じて、道德教育への理解を深められるような授業としたい。学生諸君の意欲的な参加に期待する。なお、受講希望者は初回の授業より出席し、受講の意思表示を行うこと。

**【オフィスアワー】**

各回授業後に教室にて相談などを受け付ける。

**【実務経験】**

なし

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05136] 教育方法論【平成30年度生まで】		
-----	--------------------------	--	--

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

**【成績評価（方法・基準）】**

（1）レポート（30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解）、（2）授業中・事前・事後小レポート（40%：上記項目1と同じ）、（3）授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献（30%）

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について。
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育工学. 教育工学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

**【学生へのメッセージ】**

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

**【オフィスアワー】**

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05138] 社会福祉体験実習【平成30年度生まで】			
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（1）	種 類 実習
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	建守 善之	タテモリ ヨシユキ		tatemori yoshiyuki
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会福祉の制度はどのような学問か、福祉の制度を中心に学習し介護技術等の支援方法を学び専門知識と援助技術を取得する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
高齢者福祉施設や、支援学校での実習を通して社会福祉及び介護等の体験を行う。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
実習内容の詳細は各実習施設及び支援学校の実習指導者の指示に従うこと。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
全日程出席の上、実習先の指導者評価50%、実習記録50%				
実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の習得が得られるよう反復すること。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	社会教育主事及び社会福祉主事資格取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間 教育職員免許状取得の場合：高齢者福祉施設実習 5日間・支援学校 2日間			
<b>【教科書・参考書】</b>				
必要に応じて指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実習は一瞬の不注意が大きな怪我や事故につながる恐れがあります。細心の注意を払ってください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：00から15：30				
<b>【実務経験】</b>				
教育実習と高齢者施設実習に向けたオリエンテーションや模擬授業を行い、専門知識を学ぶ。				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				教職課程
講義名	[05171] 法律学概論				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代国家はすべての決定や判断を法に基づいて行い、法治主義を採用し、法は私たちのあらゆる生活部門に関係しています。私たちの身近な法である憲法・民法（契約の自由とその制限・過失責任とその修正）・商法・会社法・労働法・刑法（犯罪と刑罰）等を概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会人として必要とされる身近な法律を体系的に習得することで、現代法治国家の問題点について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるようになることを、本授業の目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における法の問題点（法分野は問わない）について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した判例・新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	法とは何か				
第2回	法の発展と社会の発展（近代法から現代法へ）				
第3回	わが国の法体系				
第4回	法と裁判				
第5回	裁判の基準（法源）と法の解釈				
第6回	近代国家と憲法				
第7回	犯罪と刑罰				
第8回	家族1（親族）				
第9回	家族2（相続）				
第10回	契約の自由とその制限				
第11回	財産権・営業の自由の保障とその修正				
第12回	損害賠償と過失責任、過失責任主義の修正				
第13回	労働者の基本的人権、働き方改革				
第14回	ビジネスに関する法律（商法・会社法）				
第15回	プレゼンテーション（現代法の問題点）				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『現代法学入門（第4版）』伊藤 正己・加藤一郎（有斐閣）2005年。参考書：『日本人の法意識』川島 武宜（岩波新書）1967年、『法律学入門（第3版補訂版）』佐藤幸治（有斐閣）2008年、『法学入門（第6版補訂版）』末川博（有斐閣）2014年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
現代法治国家が抱えるさまざまな問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
株式会社中部銀行24年。銀行における法務担当の経験から日常生活とビジネスに関する法について具体的事例をあげて授業をします。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05172] 社会学概論【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
社会学とはどのような学問なのか、情報化、消費化社会の展開とその矛盾、その未来について学びます。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
社会学とは、社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する学問である。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。社会学のものの考え方、基本的概念、現代が直面する課題を理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義を中心とする。受講者数によっては、学生諸君にも発表をお願いする。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分、資料や指示されたテキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学修120分、ノートを整理しながら資料やテキストを読み直し、要点をまとめること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
レポートを含む期末試験70%、授業への積極性30%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	社会学とはどんな学問か			
第2回	社会学の成立、歴史と展開			
第3回	情報化・消費化社会の展開（1）			
第4回	情報化・消費化社会の展開（2）			
第5回	環境の臨界（1）			
第6回	環境の臨界（2）			
第7回	夢の時代と虚構の時代（1）			
第8回	夢の時代と虚構の時代（2）			
第9回	リアリティ・アイデンティティの変容			
第10回	現代人は愛しうるか			
第11回	北の貧困、南の貧困（1）			
第12回	北の貧困、南の貧困（2）			
第13回	現代世界の困難と課題（1）			
第14回	現代世界の困難と課題（2）			
第15回	人間と社会の未来			
<b>【教科書・参考書】</b>				
見田宗介「現代社会の理論」(岩波新書1996年)と「社会学入門」(岩波新書2006年)をテキストとして使用しつつ、適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』、那須壽編『クロニクル社会学』(有斐閣)、岩波講座『現代社会学』(岩波書店 26巻)				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
日頃から社会問題に関心を持ってほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05175] 教育制度				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日本における教育制度の原理と歴史の変遷を踏まえ、現在の教育制度が直面する諸課題について、概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
主題は、現代日本の教育制度改革である。1990年代から制度改革が要請される社会的背景、制度理念およびその具体化を教育政策の展開と関連づけて考察する。戦後教育制度の原理とその後の展開、1990年代から始まる教育制度改革の急展開と矛盾を理解し、子どもの学習権を保障する教育制度のありかたを考える力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。なぜいま教育制度の改革か				
第2回	戦後教育制度の原理とは何であったのか				
第3回	50年代教育制度改革の試みとその挫折				
第4回	60年代……人的能力開発政策とその矛盾				
第5回	オイルショック後の教育制度の機能不全の進行				
第6回	臨時教育審議会の設置（84年 - 87年）				
第7回	急速に変わる日本の学校……少子化のなかでの特色ある学校づくり				
第8回	新自由主義教育改革の登場……市場原理と公教育のスリム化				
第9回	子どもの権利条約の思想				
第10回	自治体の教育改革の動向				
第11回	教育基本法の改正は何をめざしたのか				
第12回	教育における国家の台頭				
第13回	子ども参加の教育改革の動向(1)				
第14回	子ども参加の教育改革の動向(2)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教職課程共通に使用する資料として、志村欣一・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。竹内常一『日本の学校のゆくえ』（太郎次郎）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、高橋哲哉『心と戦争』（晶文社）。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05176] 公民科教育法				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
公民科の教員として必要となる知識を獲得し、戦前の教育における「公民」と戦後の教育における「公民」概念の相違を理解して、現代社会に必要な「公民」の健全な育成に向けての課程を理解する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
戦後、高等学校の教育課程では学習指導要領の改訂が7回実施された。そして、教育基本法改定に伴い新学習指導要領が中央教育審議会により改訂されている。その中で、「公民の資質」に直接係わる公民科はあらためてその「意義を見直されるべき時期に来ている」と言えるだろう。公民科の教育過程を具体的に知り、その意義を理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
前半は講義を中心に、公民科の成り立ちを追う。後半は、現在の公民科教育課程についての理解と、受講生それぞれの問題意識を問う。参考書などを用いて、当該講義の内容に関する確認を行うこと。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学期末試験レポート40%、中間レポート2回30%、授業中の積極性（課題に対する取組み）20%、ノート作成の評価10%。ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	公民という概念の形成 - 西欧と日本 -				
第3回	公民育成の歴史的経緯 - 古代から民主主義まで -				
第4回	学校教育と公民育成の経緯 - 公民的資質 -				
第5回	学校教育と公民科 - 公民科教育 -				
第6回	公民科とは何か - 社会科から公民科へ -				
第7回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第8回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第9回	公民科の内容 - 現代社会 -				
第10回	公民科の内容 - 倫理 -				
第11回	公民科の内容 - 倫理 -				
第12回	公民科の内容 - 政治経済 -				
第13回	公民科の内容 - 政治経済 -				
第14回	公民科教育の現状				
第15回	公民科教育の課題				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキストは特になし。参考書は、平成4年、14年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
資格として教職過程を修めようとするのであれば、欠席は厳禁である。また、公民科は現代社会の問題に直接に関わる科目であることを十分に理解して授業に臨んでもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
<b>【実務経験】</b>					
元身延山高等学校教諭(社会科)、元身延町教育委員					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05177] 公民科教育法
-----	----------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

学習指導要領に求められる「公民科」の教員として必要となるスキルを獲得するための技術と心構えを学修する。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

公民科教育は、現代教育の中で日増しに重要性が再認識されている科目の1つである。人権や環境、社会インフラなどの現代的問題をどのように教授してゆけばよいか。本講義では、シラバス作成の理念を理解し、実際にシラバスを作成し、その内容に則り、単元の授業案を作成し、生徒主体型の授業展開を踏まえて、模擬授業が行えることを目標とする。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

講義形態を取るが、実質的に後半はゼミナールと同様である。学生諸君に与えられた課題を演習形式と実技形式で行う。模擬授業を行うので、学習指導案の作成は事前に行っておくこと。模擬授業の後は、教員の指導を書きとめ、指摘された問題点の克服に努めること。最低2回の模擬授業を行っていただく。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。

**【成績評価（方法・基準）】**

学期末試験レポート30%、模擬授業（指導案の作成、資料の内容も評価の対象とする）2回40%、授業中の積極性（課題に対する取り組み）20%、ノート作成の評価10%（ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする）。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	オリエンテーション
第2回	公民科教育課程の考え方
第3回	年間授業計画とは何か
第4回	年間授業計画立案の具体例と作成
第5回	学習指導案とは何か
第6回	学習指導案の考え方と授業の組み立て
第7回	IoT機器を用いたアクティブラーニング授業
第8回	アクティブラーニングによる授業の進め方
第9回	授業の構成と進め方
第10回	学習活動の評価方法と考え方
第11回	学習指導案の作成と点検の方法
第12回	模擬授業（その1）
第13回	模擬授業（その2）と（その1）の振り返り
第14回	模擬授業（その3）と（その2）の振り返り
第15回	（その3）の振り返りと公開模擬授業、まとめ

**【教科書・参考書】**

テキストは特になし。参考書は、平成元年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。

**【学生へのメッセージ】**

模擬授業を重んじるので、平常点の比率が高い。従って、当該時間の欠席はダブルのマイナス点となる。欠席は厳禁である。公民科教育法の単位を修得済みであること。

**【オフィスアワー】**

火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

**【実務経験】**

元身延山高等学校社会科教諭、元身延町教育委員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05178] 宗教科教育法				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
本授業は、授業を行う際に於いて、年間指導計画、単元の設定、実際の授業展開についての概要を理解するとともに、「釈尊伝」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、年間指導計画の立案を始め、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に体験することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的な方法を身につけることが目標となる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分程度の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。なお、宗教科教育法 においては「釈尊伝」を教科科目として設定する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
2時間以上を目途として事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認				
第2回	宗教科教育課程について				
第3回	年間指導計画の必要性と具体例				
第4回	年間指導計画の作成				
第5回	年間指導計画に基づいた単元の設定について				
第6回	学習指導案の必要性と具体例				
第7回	学習指導案および授業ノートの作成				
第8回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第9回	学習指導案および授業ノートに基づく授業展開の確認				
第10回	模擬授業および講評				
第11回	模擬授業および講評				
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第14回	模擬授業予備日				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。					
<b>【実務経験】</b>					
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05179] 宗教科教育法				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
本授業は、「法華経」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に展開することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的な方法を身につけることが目標となる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。今年度の教科テーマは「法華経」を教科科目として実施する。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
模擬授業の実施にあたって、十分な事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認				
第2回	テーマ（1）「法華経の構成について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第3回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第4回	模擬授業および講評				
第5回	模擬授業および講評				
第6回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第7回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第8回	テーマ（2）「法華経の内容について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第9回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第10回	模擬授業および講評				
第11回	模擬授業および講評				
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第14回	模擬授業予備日				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。					
<b>【実務経験】</b>					
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05183] 教育実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
教員免許状を取得するためには、教育実習が必修となっていますが、そのための事前事後指導を行います。				
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>				
教員免許状を取得するための基礎的な履修要件として教育実習が課されているが、この事前・事後指導を行うことを中心的内容とする。教育実習に臨むに当たっての心構えを豊かにし、実習生活を実りあるものとするができるよう努めることが特に求められる。教育実習の内容とそれに向けた準備、その段取り、実習を終えてからの取組みについて理解することを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学修は、あらかじめ指示された参考文献、資料を読んでおくこと。事後学修は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業の性格上、出席と取り組みの姿勢を重視する（50%）。試験レポート（50%）。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	なぜ教職を志したのか（文書で提出）			
第3回	教育実習とはどういうものか			
第4回	実習校を確保する			
第5回	教師像のイメージづくり、一日学校体験のすすめ			
第6回	学習指導案をつくる			
第7回	教育実習生の心得			
第8回	教育実習のスケジュール確認			
第9回	先輩教師からの助言			
第10回	教育実習手帳を生かす			
第11回	授業づくりと指導案			
第12回	教育実習経験者の体験を聞く			
第13回	教育実習を終えて・・・成果と課題			
第14回	よい教師になるための課題			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
授業中に適宜紹介する。必要な資料は、随時配布する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
授業の性格上1/3以上欠席した学生には、単位を与えない。毎回、積極的に授業に参加してほしい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)				
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政				
第3回	社会教育の意義と内容				
第4回	社会教育の方法・形態				
第5回	公民館とは				
第6回	図書館とは				
第7回	博物館とは				
第8回	コミュニケーション・スキル				
第9回	ワークショップの技法				
第10回	集団思考法、組織心理学				
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー				
第12回	プランニング				
第13回	プレゼンテーション				
第14回	ワークショップの計画				
第15回	ワークショップの実際				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程	
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】					
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>						
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。						
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>						
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。						
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>						
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。						
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>						
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。						
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>						
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%						
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>						
第1回	社会教育の方法					
第2回	社会教育と学校教育の関係					
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情					
第4回	学習成果の活用方法・評価方法					
第5回	教育普及活動					
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ					
第7回	ワークシートの要点					
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法					
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP					
第10回	アウトリーチの歴史と方法					
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ					
第12回	リピーターへの視点					
第13回	ボランティアの養成					
第14回	指定管理者制度					
第15回	総括					
<b>【教科書・参考書】</b>						
講義の中で適宜紹介します。						
<b>【学生へのメッセージ】</b>						
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。						
<b>【オフィスアワー】</b>						
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。						
<b>【実務経験】</b>						
なし						

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					



対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単位数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	現代青年の文化活動（1）				
第2回	現代青年の文化活動（2）				
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）				
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）				
第5回	子育て・文化協同（1）				
第6回	子育て・文化協同（2）				
第7回	環境問題に取り組む市民（1）				
第8回	環境問題に取り組む市民（2）				
第9回	人権学習（1）				
第10回	人権学習（2）				
第11回	ボランティア活動（1）				
第12回	ボランティア活動（2）				
第13回	青年の自立支援（1）				
第14回	青年の自立支援（2）				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」				
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）				
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系				
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案				
第5回	社会教育計画の実例の検討				
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化				
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）				
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）				
第9回	社会教育調査とデータの活用				
第10回	学習成果を発表する場づくり				
第11回	子ども読書活動推進計画				
第12回	芸術文化振興に関する計画				
第13回	スポーツ振興に関する計画				
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	成果発表				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義の中で適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】				
期間	前期（15回）		単位数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会教育の理念と制度				
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開				
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題				
第5回	地域開発、公害問題				
第6回	森林保護と漁業の発展				
第7回	原子力発電をめぐる諸問題				
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり				
第9回	日本社会の格差と貧困				
第10回	子ども食堂				
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり				
第12回	性的マイノリティの人権				
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木				
第14回	社会的ひきこもり者支援				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の役割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	学びの拠点としての社会教育施設						
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性						
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）						
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)						
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）						
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）						
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）						
第9回	環境問題の講座企画事例						
第10回	平和教育の講座企画事例						
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例						
第12回	家族支援についての講座企画事例						
第13回	文化活動についての講座企画事例						
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05231] 社会教育主事実習【平成31年度生まで】						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	--			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
社会教育主事の実務実践及び諸問題を学ぶために、身延町役場及び身延町教育委員会において、社会教育主事として業務の一部を実習又は補助参加をおこないます。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
身延町役場及び身延町教育委員会においての実習 1週間。身延町役場及び身延町教育委員会の主催する行事の補助 1週間。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
実習内容に関しては、身延町役場及び教育委員会に一任します。実施期間は10月の下旬となっています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 事前学習は、指導担当職員から指示された課題を必ず行っておくこと。 事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめ、指導担当職員の点検を受けること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
実習先の評価と実習記録の記入内容とを総合的に勘案して行います。。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	実習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
実習なのでテキストや参考文献は掲載しません。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
実習中は社会教育主事として業務を実施しますので、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。学務課が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには、必ず参加してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	社会教育主事資格取得課程

講義名	[05232] 視聴覚教育メディア論【平成31年度生まで】
-----	-------------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当者	成田 雅博	ナリタ マサヒロ	narita masahiro
-----	-------	----------	-----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

小・中・高校におけるデジタル版視聴覚教育ともいえる、コンピューターやネットワークを活用したICTを活用した授業を、設計・実施・評価できる実践力を育成します。学習指導要領で強調されている教育方法や、すぐれた教材、教育実践事例を検討、分析してもらいます。キーワード：ICT活用・教育方法・授業研究

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

カリキュラム編成や教材研究、授業研究の枠組みを理解し、教育実践改善の具体的方法を修得します。ICT・視聴覚メディアを活用した教育方法、教材の開発・評価の手法を理解することにより、授業力を修得できます。また、学習指導案の作成・実施・評価やカリキュラム・マネジメントの方法についても修得します。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

授業記録のビデオ、コンピューターなどによる演示を視聴したり、授業時に配布・紹介した教育実践記録を熟読したりしたあと、そとで実践やカリキュラムについて考察し、評価できる点と改善について議論します。その際、インターネットを活用して、教材や実践事例の情報を集めたり、成果を共有したりします。

**【授業外学修の方法（時間数）】**

教材や教育実践事例等について、事前配布資料を分析、考察し小レポートを作成します。事後には、他の学生の意見や関連情報をさらに探究します。合計すると、1回の授業について4時間程度の授業外学修が必要です。

**【成績評価（方法・基準）】**

(1) レポート(30%：論理性・独創性・21世紀型学力の理解)、(2) 授業中・事前・事後小レポート(40%：上記項目1と同じ)、(3) 授業中の質問・建設的な意見表明・議論への貢献(30%)

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	教材「数あてゲーム」「ジュナイユの計算棒」を例に、教育内容と教材の関係を理解する
第2回	教育内容と教材の関係、カリキュラム（教育課程）、学習指導要領との関係、授業の3要素の理解、教育方法に関する理論と実際
第3回	21世紀型学力の概観と、学力育成の方法の探究
第4回	教育方法としての仮説実験授業・授業書
第5回	国際理解教育、異文化理解教育、多文化教育と、それらの典型的な教材である貿易ゲーム
第6回	教育方法としてのゲーム。シリアスゲーム・ゲーミング・ゲーミフィケーション
第7回	「教育の情報化の手引き」を講読して、ICTと教育の係わりに関して分析・発表
第8回	情報教育の目標・内容・方法。情報活用能力の育成と学校におけるICT環境整備
第9回	情報活用の実践力分野・情報の科学的な理解分野・情報社会に参画する態度分野の教材研究
第10回	情報モラル教育の教材・教育方法研究：特にケータイ・スマートフォン等の小中高生への普及にともなう諸問題について
第11回	電子黒板・タブレット・電子教科書等のデジタル教材等ICTを活用した教育方法に関する探究（ICTを活用した探究）
第12回	学習指導案の役割の理解・すぐれた授業の学習指導案の検討・学習指導案と授業実践の関係
第13回	学習指導案、教科書等を参照して、学習指導案を作成・相互評価し、その結果を発表・質疑応答する
第14回	学習評価の理論・方法の理解。授業改善の方法
第15回	学校図書館の役割。これまでの授業のふりかえりとまとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：なし。参考書：授業の研究 教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス. 明石書店. 2008年。日本の授業研究 下巻 授業研究の方法と形態. 日本教育方法学会. 学文社. 2009年。授業研究と学習過程. 秋田喜代美. 放送大学教育振興会. 2010年。授業研究と教育学. 教育学選書 第6巻. 水越敏行他. ミネルヴァ書房. 2012年。教育の方法と技術. 平沢茂 編著. 図書文化社. 2014年。幼稚園教育要領, 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領, 特別支援学校学習指導要領。

**【学生へのメッセージ】**

これまでに小・中・高校で受けてきた授業の良い点, 改善すべき点をあらためて振り返り、事前・授業中・事後に提示されるすぐれた授業と比較しながら、自分が授業を設計・実施・評価する立場で熟考してほしい。

**【オフィスアワー】**

授業日の、昼休み及び開講日のすべての授業の終了後に、教室にて受け付けます。

**【実務経験】**

留萌高等学校・釧路西高等学校教員（数学・情報処理）5年。教育方法やICT活用に関し、具体的にイメージできる授業にします。



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar )						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課: ~とき・~直後に、2課: ~している (進行中)						
第3回	3課: ~後で、4課: 範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課: ~だけ、6課: ~だけではなく・それに加えて						
第5回	7課: ~について・~を相手にして、8課: ~を基準にして						
第6回	9課: ~に関連して・~に対応して、10課: ~や~など						
第7回	11課: ~に関係なく・無視して、12課: 強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課: ~ (話題) は、14課: ~けれど						
第9回	15課: もしそうなら・たとえそうでも、16課: ~だから (理由)						
第10回	17課: ~だから (理由) 、18課: ~できない・困難だ・~できる						
第11回	19課: ~を見て評価すると・~の立場で評価すると、20課: 結果はどうなったか						
第12回	21課: 強く言う・軽く言う、22課: ~だろうと思う						
第13回	23課: 感想を言う・主張する、24課: 提案する・意志を表す						
第14回	25課: 強くそう感じる・思いが強いられる、26課: 願う・感動する						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書: 『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書: 『日本語能力試験公式問題集: 公式問題集; N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回: 7月5日 (日)、第2回: 12月6日 (日) です。 [ <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> ]							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09006] 文法 (Grammar )						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 ( JLPT ) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形						
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式						
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意						
第4回	第3部1課：時制						
第5回	第3部2課：条件を表す文						
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け						
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け						
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け						
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け						
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け						
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け						
第12回	第3部9課：接続表現						
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え						
第14回	第3部11課：文体の一貫性						
第15回	第3部12課：話の流れを考える						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [ <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> ]							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar )						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験 ( JLPT ) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	1 課 : 時間関係、2 課 : 範囲の始まり・限度						
第3回	3 課 : 限定・非限定・付加、4 課 : 例示						
第4回	5 課 : 関連・無関係、6 課 : 様子						
第5回	7 課 : 付随行動、8 課 : 逆接						
第6回	9 課 : 条件、10課 : 逆接条件						
第7回	11課 : 目的・手段、12課 : 原因・理由						
第8回	13課 : 可能・不可能・禁止、14課 : 話題・評価の基準						
第9回	15課 : 比較対照、16課 : 結末・最終の状態						
第10回	17課 : 強調、18課 : 主張・断定						
第11回	19課 : 評価・感想、20課 : 心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書 : 『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書 : 『日本語能力試験公式問題集 : 公式問題集 ; N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回 : 7月5日 (日)、第2回 : 12月6日 (日) です。 [ <a href="https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html">https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html</a> ]							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
<b>【実務経験】</b>							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 ( Chinese Character )						
期 間	後期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1 ) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 ( Vocabulary )						
期 間	前期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1、N 2 ) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 ( Chinese Character )						
期 間	前期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 ( N 1 ) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 ( Vocabulary )						
期 間	後期 ( 15回 )		単 位 数	選 択 ( 1 )		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本語能力試験（N1、N2）合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク）2011年							
『日本語能力試験問題集N1 語彙スピードマスター』（ジェイ・リサーチ出版）2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著（アスク出版）2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar )						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
毎回の演習50%、課題50%							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
<b>【実務経験】</b>							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
<b>【実務経験】</b>							
峡南地域就学相談員							



対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[01031] 日蓮教団史【資格06031】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人入滅から近代までの日蓮教団の展開について講義していく。DVD・ビデオといった映像資料や画像資料も活用する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日蓮教団と他教団を比較することにより、日蓮教団の歴史と特徴を理解してもらうことを到達目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
具体的な教団史関係の史料を紹介しつつ、授業を進める。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修120分 該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修120分 授業で学んだ主な教団史用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト（10%）、小テスト（60%）、授業に取り組む姿勢（30%）				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の概要 中世・近世・近代における日蓮教団の動向			
第2回	六老僧			
第3回	門流の成立			
第4回	日蓮宗の京都進出			
第5回	東国から上洛と寛正の盟約			
第6回	天文法難			
第7回	西国・東国への展			
第8回	日親の諫暁と永祿の規約			
第9回	安土宗論			
第10回	受・不受の論争			
第11回	檀林教育と仏教書の出版			
第12回	祖師信仰と霊場参詣			
第13回	明治維新と廃仏毀釈			
第14回	在家仏教運動と大正・昭和期の日蓮宗			
第15回	全体のまとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：日蓮宗テキスト編集委員会編『仏教の教え』改訂版（日蓮宗宗務院刊）2005年。参考書：影山堯雄『日蓮宗布教の研究』（平楽寺書店）1975年、北村行遠・寺尾英智『日親・日奥』（吉川弘文館）2004年、宮崎英修『禁制不受不施派の研究』（平楽寺書店）1959年、望月真澄『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』（平楽寺書店）2002年。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
小テストを随時実施するので授業に欠席しないこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室、教室で対応する。				
<b>【実務経験】</b>				
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験あり				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01033] 立正安国論概説				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人著作の中で三大部の一つと数えられている立正安国論は、時の為政者へ建白された論述書である。日蓮聖人生涯の中で諸御書に言及され、書写されたことが知られている。法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを概説してゆく。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
法華經の行者日蓮聖人の宗教を理解するために、立正安国論が必須であることを学び理解する、これが本授業の目標である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
日蓮聖人がなぜ立正安国論を執筆されたのか。時代背景と宗教的環境等を考察し、日蓮聖人にとっての「立正安国」を学び、現代における立正安国とは、を課題としてゆきたい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	立正安国論が書かれた時代背景				
第2回	日蓮聖人思想の中の立正安国論				
第3回	立正安国論真跡の考究				
第4回	題号：立正とは				
第5回	題号：安国とは				
第6回	問答体による内容 災難の原因				
第7回	問答体による内容 謗法の現状				
第8回	問答体による内容 災難の対治				
第9回	問答体による内容 謗法の禁断				
第10回	問答体による内容 正法への帰依				
第11回	問答体による内容 裳婆即寂光土				
第12回	問答体による内容 宗教と国家・仏法と王法				
第13回	立正安国論の建白とその後				
第14回	破邪顕正				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年。参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻などがある。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
立正安国論を学ばずして日蓮聖人を語ることはできない。その思いをもって、難解を厭わずチャレンジしてほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業時間の前後に教室にて受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01034] 立正安国論講読				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
立正安国論は、日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある。旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を概説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮聖人の思想・信仰の出発点であり帰結でもある立正安国論における旅客と主人との問答を進める内容から、日蓮聖人の主張を理解することが本授業の目標である。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
立正安国論を読むこと。わかりやすい書き下し文の冊子をテキストに内容を理解しやすいように進めたい。また真跡影写本を部分的に読む試みも体験し、御遺文に親しむ学習の契機としたい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
期末レポート60%、授業への取り組み姿勢40%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	第一問答から順次、受講生の輪読で進める				
第2回	輪読				
第3回	立正安国論真蹟を読む				
第4回	問答体について				
第5回	引用経典の解説（1）				
第6回	引用経典の解説（2）				
第7回	七難中の他国侵逼と自界叛逆の二難について				
第8回	法然の浄土教「選択集」について（1）				
第9回	法然の浄土教「選択集」について（2）				
第10回	捨閉閣抛について				
第11回	謗法について				
第12回	「汝早く信仰の寸心を改めよ」について				
第13回	「実乗の一善」について				
第14回	三界仏国、即身成仏				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキスト：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年。参考書は春秋社発行『日蓮聖人全集』第一巻、『日蓮聖人御遺文講義』第一巻 山喜房発行『傍註立正安国論通解』などがある。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
御遺文に近づくこと、そのために読み慣れること、くりかえし読み、読解力が身につくよう、予習と復習を怠らず、講義に欠席せぬようにつとめよう。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業時間の前後に教室にて受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[01035] 寺院資料論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日本の寺院に所蔵されている資料（史料）やその保存建築について、基本的な分類の理解などを中心として理解を深める。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義を受講することにより寺院資料や建築における基礎的知識を得ることができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
資料等を配布して授業を進めるが、建築物を実際に見学しての授業も行う予定である。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
事前事後の学修確認25% 授業に対する取り組み姿勢25% 学力確認レポート50%				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	資料護持			
第3回	寺院資料の現状			
第4回	修理と保存の姿			
第5回	卷子・軸装・折り本			
第6回	保存と管理設備			
第7回	保存設備（建築）と目録作成 その1			
第8回	保存設備（建築）と目録作成 その2			
第9回	宝蔵 その1			
第10回	宝蔵 その2			
第11回	虫損とその対策			
第12回	曝涼 その1			
第13回	曝涼 その2			
第14回	その他、宝蔵建築の事例			
第15回	まとめ。			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：適宜、プリントなどを配布する。参考書：『寺宝護持の心得』（ISBN4890451218、1996、日蓮宗宗務院）、その他進捗状況を鑑み、随時指示する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
実際の寺院等の見学も行う予定である。日ごろ問題意識をもって講義に取り組んで貰いたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人法養寺代表役員 日蓮宗宗宝霊跡審議会専門員				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[01036] 教化学【資格06032】				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>教化とは衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることであるが、その教化方法には随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説します。</p>					
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b>					
<p>教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に考察する学問である。具体的には、釈尊・『法華経』・日蓮聖人の教法を現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探ることにある。</p>					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
<p>キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、質問をしながら、問題点について共に考えていく。</p>					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
<p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。</p>					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
<p>期末レポート（50%）。授業参加の状況と受講態度も重視する（50%）。</p>					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	イントロダクション：教化学について				
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化方法 その1				
第3回	釈尊の教化法 その2				
第4回	釈尊の教化法 その3				
第5回	釈尊の教化法 その4				
第6回	一仏乗の思想について				
第7回	法華経の譬喩について				
第8回	中国仏教における布教展開 その1				
第9回	中国仏教における布教展開 その2				
第10回	日本仏教における布教展開 その1				
第11回	日本仏教における布教展開 その2				
第12回	日蓮聖人における布教展開 その1				
第13回	日蓮聖人における布教展開 その2				
第14回	日蓮聖人における布教展開 その3				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著（ミック刊）2004年。</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>教化学に関する総合的理解を得るために、配付資料に基づいて復習し、また次回の講義資料も毎回配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>毎週授業の前後に教室にて受け付けます。</p>					
<b>【実務経験】</b>					
<p>宗教法人妙法寺代表役員</p>					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[01071] 日蓮教学史【資格06071】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	都守 基一	ツモリ キイチ		tsumori kiichi
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容したかを概説していく。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容したかを理解すること、これが本授業の目標である。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義によって授業を進める。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学習120分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分 テキストを読み直し、ノートをまとめる。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
期末レポート80%、授業への取り組み姿勢20%で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	日蓮教学史を学ぶ意義			
第2回	日蓮教団史の概要			
第3回	日蓮聖人直弟の教学			
第4回	五一相對と本迹論			
第5回	中山門流の教学			
第6回	四条門流の教学			
第7回	日朝と身延門流の教学			
第8回	浜門流・六条門流の教学			
第9回	日什門流の教学			
第10回	日陣門流の教学			
第11回	日隆門流の教学			
第12回	日真門流の教学			
第13回	室町期富士門流の教学			
第14回	江戸初期の教学			
第15回	江戸後期の教学			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：執行海秀『日蓮宗教学史』平楽寺書店。参考書：執行海秀『日蓮宗信仰の種々相』教育新潮社、望月歆厚『日蓮宗宗学説史』平楽寺書店、立正大学日蓮教学研究所編『日蓮宗読本』、平楽寺書店日蓮宗事典刊行委員会編『日蓮宗事典』日蓮宗宗務院。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
積極的な講義参加を望む。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業時間の前後に教室にて受け付ける。				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師・日蓮仏教研究所主任				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目	日蓮学系科目

講義名	[01072] 日蓮教学と近代社会【資格06074】
-----	----------------------------

期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	岡田 文弘	オカダ フミヒロ	okada fumihiro
-----	-------	----------	----------------

**【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】**

近代以降の仏教諸宗派の動向を見ると、日蓮系の仏教運動が最も目立った展開を見せたと言っても過言ではありません。近代においては、日蓮の影響を自認する多彩な人物たちが社会・政治の領域で力を持ち、また民衆文化においても大きな影響を与えました。しかし一方で、そうした近代の日蓮仏教運動は、総括・評価の難しい面もあります。そこで本授業では、近代における日蓮の仏教の展開を受講生の皆さんと一緒に検討していくことを目的とします。本授業によって受講生は、日蓮思想の広がり多様性、そして近代という時代について理解を深め知識を得ることができるでしょう。

**【授業修了時の達成課題（到達目標）】**

近代における日蓮思想の展開について基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。

**【授業方法（フィードバックの内容）】**

教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入していただきます。その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行ないます。

**【授業外学習の方法（時間数）】**

この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、シラバス記載の参考書や授業内で指示した参考文献などを読んでおくこと。事後の学習では、リアクション・ペーパーへのフィードバックも踏まえて、学習した内容を自分なりに整理しておくこと。

**【成績評価（方法・基準）】**

授業への取り組みの姿勢（毎回のリアクション・ペーパーへの記入等。50%）および、最終回に実施する試験（50%）により、総合的に評価を行ないます。

**【授業計画（各回の授業内容）】**

第1回	ガイダンス
第2回	明治以降の日蓮門下の流れ
第3回	文献学と民衆信仰：小川泰堂
第4回	教学革新の試み：優陀那日輝
第5回	国柱会概論：その成立と展開
第6回	国柱会概論：田中智学の活動
第7回	本多日生の活動
第8回	内村鑑三『代表的日本人』の日蓮観
第9回	日蓮主義と文学：高山樗牛
第10回	日蓮主義と文学：宮沢賢治
第11回	国家主義との関わり：北一輝・石原莞爾
第12回	近代の日蓮研究：山川智応・姉崎正治
第13回	日蓮系新宗教：その台頭
第14回	日蓮系新宗教：その展開
第15回	まとめ

**【教科書・参考書】**

教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：田村芳朗・宮崎英修編『講座日蓮4（日本近代と日蓮主義）』（春秋社、1972）、大谷栄一『近代日本の日蓮主義運動』（法蔵館、2001）、西山茂編『シリーズ日蓮4 近現代の法華運動と在家教団』（春秋社、2014）。

**【学生へのメッセージ】**

授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。

**【オフィスアワー】**

木曜12:00-13:00（要予約、ookada@min.ac.jp）

**【実務経験】**

日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01074] 日蓮学特講				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
現代社会の問題を仏教思想・法華思想・日蓮聖人の思想に基づいて考察する応用力を養う。本講義では特に五大部の一つ『撰時抄』の講読を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義と「日蓮学特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解することができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
様々な資料（遺文）を提示しながら授業を進める。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学修として資料の語句調べ、並びに内容把握（120分以上）。事後学修として内容についての読み直し、および理解の整理、ノート作り（120分以上）					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業に取り組む姿勢（事前・事後学修を含む）50%と課題レポート50%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『撰時抄』 解題				
第3回	『撰時抄』 講読(1)				
第4回	『撰時抄』 講読(2)				
第5回	『撰時抄』 講読(3)				
第6回	『撰時抄』 講読(4)				
第7回	『撰時抄』 講読(5)				
第8回	『撰時抄』 講読(6)				
第9回	『撰時抄』 講読(7)				
第10回	『撰時抄』 講読(8)				
第11回	『撰時抄』 講読(9)				
第12回	『撰時抄』 講読(10)				
第13回	『撰時抄』 講読(11)				
第14回	『撰時抄』 講読(12)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
テキストについては随時指示する。参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文』（身延山久遠寺）1954年 / 『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田 淳雄（地人館）1995年 / 『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年 / 『妙法蓮華経開結』法華経普及会（平楽寺書店）1924年ほか。授業の中で適宜紹介していく。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
『撰時抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[01075] 日蓮学特講			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
現代社会の問題を仏教思想・法華思想・日蓮聖人の思想に基づいて考察する応用力を養う。本講義では特に五大部の一つ『報恩抄』の講読を行う。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義と「日蓮学特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解することができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
様々な資料（遺文）を提示しながら、受講生が遺文を講読しその内容を確認しつつ授業を進める。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前学修として事前に知らされる講義内容を予習し問題点を探る（120分以上）。事後学修として学修した部分をノートなどにまとめ理解不十分な点を探る（120分以上）				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業に取り組む姿勢（事前・事後学修を含む）50%と課題レポート50%で評価する。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	オリエンテーション			
第2回	『報恩抄』 解題			
第3回	『報恩抄』 講読(1)			
第4回	『報恩抄』 講読(2)			
第5回	『報恩抄』 講読(3)			
第6回	『報恩抄』 講読(4)			
第7回	『報恩抄』 講読(5)			
第8回	『報恩抄』 講読(6)			
第9回	『報恩抄』 講読(7)			
第10回	『報恩抄』 講読(8)			
第11回	『報恩抄』 講読(9)			
第12回	『報恩抄』 講読(10)			
第13回	『報恩抄』 講読(11)			
第14回	『報恩抄』 講読(12)			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
参考書：『昭和定本日蓮聖人遺文』（身延山久遠寺）1954年 / 『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田淳雄（地人館）1995年 / 『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年 / 『妙法蓮華経開結』法華経普及会（平楽寺書店）1924年ほか。授業の中で適宜紹介していく。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
『報恩抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[01076] 日蓮宗の歴史資料【資格06076】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮教団史の史料、特に宗門関係古文書に親しみ基礎的な史料読解力をつけることを目的とする。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
本講義を受講することにより、近世日蓮教団が為政者（幕府）より課せられた宗教統制や当時の寺院と民衆との関係、さらに社会情勢を理解することができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
史料を読解して内容を理解するためには、さまざまな辞典や参考文献を駆使して「調べる」ことが必要となる。受講生諸君にテキストの各部分を割り当てて順次発表してもらう。割り当て部分の発表は必須である。視聴覚教材を用い、一部タブレット端末等を使用して双方向授業を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。内容としては、あらかじめ配布したプリント並びに指示した参考書は必ず読んでおくこと（事前）。受講後は講読した古文書についてまとめノートを作成すること（事後）。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学期末レポート70%、授業及び課題に対する取り組み姿勢30%。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	日蓮教団史の参考文献			
第2回	「宗門改」関係書状 概説			
第3回	「宗門改」関係書状 講読（その1）			
第4回	同上（その2）			
第5回	同上（その3）			
第6回	同上（その4）			
第7回	同上（その5）			
第8回	同上（その6）			
第9回	同上（その7）			
第10回	同上（その8）			
第11回	同上（その9）			
第12回	同上（その10）			
第13回	「宗門改」と日蓮宗			
第14回	「縁付」と「寺送」に対する日蓮宗寺院の対応			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト 事前にプリントを用意する。参考書 中尾堯『日蓮宗の成立と展開』（吉川弘文館）、立正大学日蓮教学研究所編『日蓮教団全史上』（平楽寺書店）など				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
割り当て部分の発表・講読が必須である。各講義終了前に要点を述べるので、その要点に基づいた積極的な予習・復習を希望する。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01077] 日蓮聖人真蹟研究				
期 間	前期 (15回)	単 位 数	必修 (2)	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人の思想・行動などを究明する基本的な資料は、聖人が書き遺した遺文(著書・書状など)である。聖人の自筆 遺文(真蹟)について多角的に考察を加える。					
<b>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</b>					
本講義を受講することによって遺文の中で真蹟の持つ意味を明らかにし、併せて真蹟そのものに親しむことにより、より深く遺文を理解することができる。					
<b>【授業方法(フィードバックの内容)】</b>					
日蓮聖人真蹟書状を写真版によって講読する。二紙程度の短文の書状や長文の書状と講読する。真蹟の書写などの課題を通し、日蓮聖人の「くずし字」を習得する。タブレット端末を使用し、視覚的にも理解を深める。					
<b>【授業外学修の方法(時間数)】</b>					
事前学修として配付される資料を熟読し、解らない文字についてチェックを行うこと(120分以上)。事後学修として配付された活字資料を基に筆跡などを熟知すること(120分以上)。					
<b>【成績評価(方法・基準)】</b>					
学期末レポート50%、中間レポート20%、課題に対する評価30%					
<b>【授業計画(各回の授業内容)】</b>					
第1回	日蓮聖人真蹟の種類と内容				
第2回	料紙の使用法と書状の特徴				
第3回	著作と消息(手紙)についての検討				
第4回	図録・要文・書写本についての検討				
第5回	新発見の日蓮聖人真筆遺文について				
第6回	真蹟書状『富木殿御書』の解題と講読(1紙、『昭和定本日蓮聖人遺文』809頁)				
第7回	真蹟書状『五人土籠御書』の解題と講読(2紙、同506頁)(その1)				
第8回	同上(その2)				
第9回	真蹟書状『御衣并単衣御書』の解題と講読(4紙、同1111頁)(その1)				
第10回	真蹟書状『御衣并単衣御書』の講読(その2)				
第11回	同上(その3)				
第12回	真蹟書状『国府尼御前御書』の解題と講読(7紙、同1062頁)(その1)				
第13回	真蹟書状『国府尼御前御書』の講読(その2)				
第14回	同上(その3)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講読する日蓮聖人真蹟書状については、写真版のプリントを用意する。参考書 川澄勲編『仏教古文書字典』(山喜房仏書林)、寺尾英智『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』(雄山閣出版)、中尾堯『ご真蹟にふれる』(日蓮宗新聞社)、『日蓮聖人真蹟集成』全10巻(法蔵館)、松本慈恵編『日蓮聖人書体字典』(国書刊行会)、山中喜八『日蓮聖人真蹟の世界』上・下(雄山閣出版)、立正安国会編『日蓮大聖人御真蹟対照録』全3巻(立正安国会)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講読にあたっては受講生を順次指名するので、積極的な予習・復習が望まれる。講読の順序は変更する場合もある。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可(kimura(a)min.ac.jp)					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01080] 観心本尊抄概説				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ		otani gyoko
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の概要について学修します。真蹟・写本・対告者・述作由来・題号・署名・構成・遺文中の位置・末註・概要など、『観心本尊抄』の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、法開頭の書とされている『観心本尊抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『観心本尊抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	『観心本尊抄』の真蹟・写本				
第2回	『観心本尊抄』の述作地				
第3回	『観心本尊抄』の述作年・聖寿				
第4回	『観心本尊抄』の対告者				
第5回	『観心本尊抄』の述作由来 1 ー外的理由ー				
第6回	『観心本尊抄』の述作由来 2 ー内的理由ー				
第7回	『観心本尊抄』の題号				
第8回	『観心本尊抄』の署名				
第9回	『観心本尊抄』の構成				
第10回	『観心本尊抄』の遺文中の位置				
第11回	『観心本尊抄』の末註				
第12回	『観心本尊抄』の概要 1				
第13回	『観心本尊抄』の概要 2				
第14回	『観心本尊抄』の概要 3				
第15回	観心本尊抄概説のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道著(大蔵出版)1982年、『本尊抄講讃』上・中・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1987年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業内容の関係から後期の「観心本尊抄講読」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01081] 観心本尊抄講読				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の講読をとおして、観心・十界互具・一念三千などの日蓮教学の基本的事項について学修します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、『観心本尊抄』を講読することにより、『観心本尊抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	摩訶止観結成理境の文				
第2回	一念三千の名目出处				
第3回	天台大師の功績と末学の無知				
第4回	教門と観門の難信難解				
第5回	草木国土と色心因果				
第6回	観心の心				
第7回	十界互具の証文 1				
第8回	十界互具の証文 2				
第9回	十界互具の難信 1				
第10回	十界互具の難信 2				
第11回	十界互具の事実 1				
第12回	十界互具の事実 2				
第13回	十界互具の現証 1				
第14回	十界互具の現証 2				
第15回	観心本尊抄講読のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道著(大蔵出版)1982年、『本尊抄講讀』上・中・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1987年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業内容の関係から前期の「観心本尊抄概説」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01086] 日蓮教学と現代社会【資格05191】				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人の思想は単に知識として学べば良いだけでなく、それを現実の社会問題の解決や改善に活かすという実践が求められます。本授業では日蓮聖人の思想を活かし、どのように現代に生きる我々が抱える諸問題を考えていくべきかを、受講生の皆さんと一緒に考えていくものです。将来皆さんが、本学で学んだ日蓮聖人の精神を社会に還元していくにあたり、その一助となるような授業にしていきたいと思えます。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮教学に立脚して現代を捉える上で、基本的な知識を体系的に身につけ、関連の諸問題について自ら考察し、それを具体的に述べられる力を養う。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業の最後に次回のテーマを指示するので、それについて自分なりの意見をまとめておいてください。そして翌週、その意見を発表してもらいます。そして講師の補足説明を加えた上で、テーマについて自由にディスカッションをします。ディスカッション後、リアクションペーパーを配布し、学べたことや感想等を記入してもらいます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
授業での意見発表やディスカッションに備え、事前に参考書等で調べ物をするを推奨する。授業後は授業内で学べたことについて、自分なりにノート等に整理しておくこと。授業時間以外に毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修をすること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業での参画（発言やリアクションペーパーなどで評価、70%）と、学期末の試験（各人興味のあるテーマについて、ノート持ち込み可の自由論述を予定。30%）で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	現代における日蓮思想の親和性と異質性				
第3回	宗教間の衝突をめぐる問題				
第4回	宗教間の衝突をめぐる問題				
第5回	「宗教離れ」の問題				
第6回	「宗教離れ」の問題				
第7回	政治と宗教				
第8回	政治と宗教				
第9回	環境問題				
第10回	生命倫理				
第11回	生命倫理				
第12回	ジェンダー問題				
第13回	高齢化社会問題				
第14回	現代における日蓮思想の有効性				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：レジュメ等を使用。参考書：『日蓮聖人の教えと現代社会』庵谷行亨著(山喜房佛書林)1993年、『法華信仰の道』庵谷行亨著(日蓮宗新聞社)1998年、『日蓮聖人の教え』庵谷行亨著(山喜房佛書林)2012年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
ディスカッション主体の授業にしていきたいので、受講生の皆さんが主体的に問題意識を持つことが求められます。自由に発言がしやすい場となるよう、最大限に努めます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01087] 開目抄講読				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の講読をとおり、三徳と三道・儒家の教え・外道の教え・仏教の教え・文底の一念三千・十界互具などの日蓮教学の基本的事項について学修します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、『開目抄』を講読することにより、『開目抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『開目抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講者が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	三徳と三道				
第2回	儒家の教え				
第3回	外道の教え				
第4回	仏教の教え				
第5回	文底の一念三千				
第6回	十界互具の法門				
第7回	諸宗の誤り				
第8回	諸宗の中国渡来				
第9回	法相宗				
第10回	真言宗				
第11回	華嚴宗				
第12回	日本の仏教				
第13回	法華経の二大思想				
第14回	二乗の成仏				
第15回	開目抄講読のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著(筑摩書房)1988年。『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
講義内容の関係から前期の「開目抄概説」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人宗長寺代表役員					



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[01088] 開目抄概説				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の概要について学修します。真蹟・写本・述作年代・述作地・対告者・遺文上の位置・述作由来・題号・構成・概要など、『開目抄』の基本的事項について概説します。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業では、人開頭の書とされている『開目抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『開目抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『開目抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表(プレゼンテーション)し、全員で意見交換(ディスカッション)をおこないます。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト(80%)、課題発表などの授業への取り組み姿勢(20%)を基準として総合的に評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	『開目抄』の真蹟・写本				
第2回	『開目抄』の述作年代・述作地				
第3回	『開目抄』の対告者・聖寿				
第4回	『開目抄』の遺文上の位置				
第5回	『開目抄』の述作由来 1				
第6回	『開目抄』の述作由来 2				
第7回	『開目抄』の述作由来 3				
第8回	『開目抄』の述作由来 4				
第9回	『開目抄』の題号				
第10回	『開目抄』の構成				
第11回	『開目抄』の末註				
第12回	『開目抄』の概要 1				
第13回	『開目抄』の概要 2				
第14回	『開目抄』の概要 3				
第15回	開目抄概説のまとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著(筑摩書房)1988年。『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述(山喜房佛書林)1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業内容の関係から後期の「開目抄講讀」と併せて受講することを望みます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人宗長寺代表役員					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[01101] サンスクリット語				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義と演習
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
サンスクリット語のテキストを読むための基礎力を獲得するために必要な文法力と語彙力を養う。文法の説明は講義形式で行い、その後に演習形式で設問を解く。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
中期インドアリアン語に属する標準的なパーニニ文法に基づく名詞、代名詞、形容詞、数詞の変化と音韻の変化などの基礎を習得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を養うことを目的とする。この講義では、音韻・連声・名詞・形容詞・数詞・代名詞の文法理解ができることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
テキストの文法解説を行いながら、テキストに掲載されている練習問題を解く。最初は教員が解答の解説を行うが、途中からは受講生が板書をして、自らその解を示す。専門言語はたいへん難しい！そのため、毎日欠かさず文法内容を反芻して、体に覚えこませるようにすること。受講後は特にホッとせずに、必ず文法書と練習問題を見直して、不明な箇所を残さないようにすること。受講前には、文法書の当該ページを必ず読んでおくこと。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。しかし、理解できなければ時間にとらわれずに理解できるようになるまで、繰り返し取り組むこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学期末試験60%（筆記試験、サンスクリット文の和訳と文法説明を付す）。授業中の取組40%（練習問題に真剣に取り組み、事前・事後学習の成果が授業中に現れているか）。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	サンスクリット語とは何か				
第2回	文字と発音				
第3回	音の変化 - 母音の変化 -				
第4回	音の変化 - 内・外連声 -				
第5回	名詞・形容詞の変化 - 母音の活用 -				
第6回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用（1） -				
第7回	名詞・形容詞の変化 - 子音の活用（2） -				
第8回	代名詞の変化、比較法と数詞の変化				
第9回	動詞の変化（総論）				
第10回	動詞の変化 第一次活用				
第11回	動詞の変化 第二次活用				
第12回	動詞の変化 アオリスト				
第13回	動詞の変化 完了と使役、条件法				
第14回	実力診断試験				
第15回	試験の解答と解説、全体の総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書は『サンスクリット語初等文法』j.ゴンダ著、辻直四郎校閲、鎧淳訳(春秋社)。参考書は『サンスクリット文法』辻直四郎著(岩波全書)。『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著(平河出版社)など。辞書は、『梵和大辞典』(講談社)など。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
原典研究を志すものは、最初でつまづかないように、特に欠席は厳に謹んでもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目		
講義名	[01102] 漢文【資格06102】						
期 間	後期（15回）		単位数	選択（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	--			
担当者	桑名 貴正		クワナ カンショウ		kuwana kansyo		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
漢文は中国語という外国語で、中国の純粋な記載言語としての文語文であるが、その形を模倣した日本人の文章も含む。仏教漢文の法華経要文を繰り返し訓読することにより、句読点・返り点・送りがない・読まない文字・二度読む文字・返読文字等が自然に会得でき、より漢文に慣れ親しめるために、その要文内容をも深める。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
仏教を研究する上で、漢文体で書かれた仏教文献が多く、漢文読解力は仏書研究上、必要不可欠である。そこで、漢文学修の基礎として、私達が手にしている妙法蓮華経を中心に学修し、漢文に慣れ親しみ、漢文読解力を身につけることを、本授業の目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
妙法蓮華経の要文をテキストとし、漢文の訓読を反復することを中心として、その要文の内容理解を深め、漢文に慣れ親しむ。繰り返し訓読を重ねることにより、漢文読解の力が養えられる。漢文の訓読の訓練に重点を置き習練をする。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前の学修では、各回の講義内容・テキストの配付資料により、事前学修を2時間以上行うこと。事後の学修では、配付テキスト資料に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
授業内の漢文読解修得度テスト50%、授業への取り組み状況も重視する50%。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	序品第一の要文・文殊師利菩薩と弥勒菩薩との修行の相違						
第2回	方便品第二の要文・諸法実相の内容						
第3回	方便品第二の要文・諸仏の世に出現する理由						
第4回	譬喩の要文・成仏の理解						
第5回	法師品第十の要文・成仏の方法 末法悪世に生まれた理由						
第6回	提婆達多品第十二の要文・悪人成仏と女人成仏						
第7回	勸持品第十三の要文・衣座室の修行 二十行の偈						
第8回	如来寿量品第十六の要文・娑婆の本国土性の開頭						
第9回	如来寿量品第十六の要文・良医良薬の譬え 毎自の悲願						
第10回	分別功德品第十七の要文・仏の寿命の聞説の功德 一念信解の功德						
第11回	常不軽菩薩品第二十の要文 但行礼拝						
第12回	如来神力品第二十一の要文 別付属・四句の要法						
第13回	観世音菩薩普門品第二十五の要文 供養の真意 観音の名前の因縁						
第14回	普賢菩薩勸発品第二十八の要文 四法成就等						
第15回	まとめ						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：本山頂妙寺蔵版『妙法蓮華経（改正訓点・句読・清濁）』（平楽寺書店）2004年。プリントを配布する。参考書：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』（平楽寺書店）2000年、岩波文庫『法華経』上・中・下 坂本幸男・岩本裕訳注（岩波書店）1997年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
これまで、漢文に接する機会はあまりなかったと思うが、反復練習をすれば、容易にそのコツが得られ、仏教専門科目のレポート・卒業論文等において大いに役立つであろう。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業時間の前後に教室にて対応する。							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人妙法寺代表役員							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01131] チベット語			
期 間	前期 (15回)	単 位 数	選択 (2)	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ	mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
チベットの文字とチベット語の基礎的文法を講義する。それとともに、簡単なチベット文を解説することで、自分一人でチベット語仏典を購読する方法を解説する。				
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>				
そのサンスクリット原典の多くが失われてしまった現在では、チベット語に翻訳された大蔵経は、仏教学研究の上での貴重な資料となる。本講義は、これらのチベット語資料を自由に扱うことができる迫力を習得することを目的とする。チベット語は、その文法が日本語に近い言語であり、親しみやすい言葉である。文字に慣れてしまえば、容易に理解できるようになる。				
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>				
教科書に従って、チベット語文法の基礎を学ぶ。ただし、ドイツ語のできない学生には、教科書の和訳を用意する。事前学習 (90分) としては、シラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。事後学習 (90分) としては、学習した文字・単語を覚え、講義内容の理解を含め次回に備えること。				
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>				
第1回	チベット文字			
第2回	名詞			
第3回	指示代名詞			
第4回	文末不変化辞			
第5回	具格と動詞			
第6回	命令文			
第7回	格不変化辞(1)			
第8回	格不変化辞(2)			
第9回	人称代名詞			
第10回	動詞(1)			
第11回	動詞(2)			
第12回	代名詞			
第13回	動詞のモルフォロジー			
第14回	例文読解			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書: Michael Hahn, Lenbuch der klassischen Schriftsprache. Swisttal-Odendorf1996. 参考書: 山口瑞鳳『概説チベット語文語文法』(春秋社,2002年)、『チベット語初頭文法』高橋尚夫・前田亮道(ノンブル社)2004年、H.A.イェシュケ『蔵英辞典』(臨川書店,1987年)、『蔵漢大辞典』(北京,1985年)				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
チベット語を身につけることは、チベット語文献を読むためや、チベット旅行を容易にするための手段である。チベット語に興味があるだけでは、学習が続かないので、明確な目的をもって学んでもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01132] 大乘仏教概論【資格06132】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	--
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
インドにおいて仏教の改革運動として誕生した大乘仏教についてその成立から展開までを講義する。具体的には、様々な大乘経典から論書への展開を経て金剛乗に至るインド仏教の思想的変遷を解説する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
釈尊が開いた仏教の教えは、インドにおいて大乘仏教として大きく展開し、東アジアに伝わった。インドにおける大乘仏教の展開を理解することにより、東アジアの仏教思想の基盤となったものが明らかになる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義であるから、教科書として用いるテキストに従って講義をしていく。それゆえにノートに要点を筆記することに終始することになるであろう。事前学習（90分）としてテキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習しておくこと。事後学習（90分）としては、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	大乘仏教とは何か			
第2回	大乘仏教起源論			
第3回	上座部仏教と大乘仏教			
第4回	戒律と教団			
第5回	菩薩思想			
第6回	般若経			
第7回	華嚴経			
第8回	法華経			
第9回	浄土経典			
第10回	中観思想			
第11回	瑜伽行唯識思想			
第12回	如来蔵思想			
第13回	仏教論理学			
第14回	密教			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：大正大学仏教学部編『お坊さんも学ぶ仏教の基礎 1 インド編』（大正大学出版会）2016年 参考書：『シリーズ大乘仏教 全10巻』桂紹隆他編（春秋社）2011年、『講座・大乘仏教 全10巻』平川彰他編（春秋社）1981年。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 日本に伝わった仏教が、本来はどのような姿だったのかを考えながら、インドの仏教を理解してもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目		
講義名	[01133] 中国天台学【資格06133】				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byung kon		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
この授業では、大乘仏教の代表的な経典の一つである『法華経』の仏教史上における歴史的展開について概観する。とりわけ、本経に対する東アジアの三国（中国・海東・日本）における事例を取り上げ、法華弘通史の全体像の把握に努める。かつ折に触れて『法華経』の漢訳を用い、法華教学史上の重要な経文について紹介・解説する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
この授業を受けることにより、仏典をより身近に感じることができるようになり、本学本宗の所依経典である『法華経』の中心思想並びにその思想史の展開について理解することができるようになる。と同時に原典を読み解く力を身につけることができるようになる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス、法華経研究史				
第2回	法華経の成立と展開				
第3回	法華経の成立と展開				
第4回	法華経の思想				
第5回	法華経の思想				
第6回	鳩摩羅什と妙法蓮華経				
第7回	鳩摩羅什と妙法蓮華経				
第8回	智顛と中国天台宗				
第9回	智顛と中国天台宗				
第10回	最澄と日本天台宗				
第11回	最澄と日本天台宗				
第12回	日蓮と日蓮宗				
第13回	日蓮と日蓮宗				
第14回	海東における法華天台思想の展開				
第15回	海東における法華天台思想の展開、まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：授業中に適宜資料を配付する。参考書：『法華思想』横超慧日編著（平楽寺書店）1969年、『法華経の思想と文化』坂本幸男編（平楽寺書店）1965年、『法華経の中国的展開』坂本幸男編（平楽寺書店）1972年、『智慧 / 世界 / ことば』桂紹隆他編（春秋社）2013年、『法華経：あなたもブツダになれる』植木雅俊著（NHK出版）2018年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01134] 日本天台学【資格06134】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--
担当者	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byung kon
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
「日本仏教の故郷となった比叡山の宗派は天台宗である。そのために日本仏教の教理の淵源も天台宗にもとづくことになる。天台宗の教えを知らなければ、日本仏教の教えのほんとうの意味は分からないことになる。本書は、鎌倉時代の大学者、凝然大徳が書いた『八宗綱要』のなかの「天台宗」の一章の講義である。それは、天台宗の歴史と思想の大綱を初学者が理解するには恰好の書である」（参考書より）				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
最澄は入唐して円戒禅密の四宗を相承し、比叡山に天台法華宗を開創する。門下の円仁や円珍の入唐求法により天台密教は隆盛し、円仁の伝えた弥陀念仏が叡山浄土教となって鎌倉期の浄土教に展開する。平安中期にいたると中古天台といわれる観心主義の教学となって本覚思想を生むにいたり、鎌倉仏教の成立をうながすことになる。このような日本天台宗の展開を踏まえたくて、『八宗綱要』を通して天台教学の理解を深め、延いては日蓮学へと繋げることを目標とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	ガイダンス			
第2回	天台宗の歴史：天台山国清寺と日本仏教			
第3回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論			
第4回	天台宗の歴史：天台宗の宗名と経論			
第5回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開			
第6回	天台宗の歴史：天台宗の成立と展開			
第7回	天台宗の教理：五時八教、化法の四教、三蔵教			
第8回	天台宗の教理：三蔵教			
第9回	天台宗の教理：三蔵教			
第10回	天台宗の教理：通教			
第11回	天台宗の教理：別教			
第12回	天台宗の教理：円教、仏身、仏土			
第13回	天台宗の教理：化儀の四教、五時			
第14回	天台宗の実践：一心三觀と四種三昧			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『八宗綱要；下』平川彰著（大蔵出版）1981年。参考書：『八宗綱要：仏教を真によく知るための本』鎌田茂雄全訳注（講談社）1981年、『天台思想入門：天台宗の歴史と思想』鎌田茂雄著（講談社）1984年、『天台四教儀』李永子訳注（経書院）1988年、『法華玄義を読む：天台思想入門』菅野博史著（大蔵出版）2013年、『天台四教儀談義：法華経理解を深める天台学へのいざない』三友健容著（大法輪閣）2016年。辞典類：『天台学辞典』河村孝照編著（国書刊行会）2013年。その他、授業中に適宜資料を配付する。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。				
<b>【実務経験】</b>				
なし				

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[01135] 中国仏教概論【資格06135】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	2年	3年	--	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
一世紀頃にシルクロードを通して中国に伝わった仏教は、儒教や道教と対立・融合しながら受容され、支謙・竺法護・鳩摩羅什といった訳経僧に加え、法顕・玄奘など求法僧の活躍により多くの仏典が漢訳され、その後、三論・天台・三階教・法相・律・華嚴・密教・浄土教・禅など各宗派・学派の形成により、中国仏教という独自の宗教思想が展開されるようになる。本講義は、仏教の中国における歴史的展開の理解に努めるものである。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
中国仏教の歴史的な展開について理解することができ、日本仏教との関係性の中で、その独自性についての私見を深めることができる。中国仏教を中心とする東西の仏教事情について理解することができ、これまでの仏教思想の推移とこれからの仏教学の進展についての素養を身につけることができる。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
配付資料に沿って進めていきます。双方向授業を行いますので、iPadは必ず持ってきてください。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表（成績評価の対象）できるように努めてください。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	初期の仏教				
第3回	羅什及び南北朝の仏教				
第4回	羅什及び南北朝の仏教				
第5回	羅什及び南北朝の仏教				
第6回	隋唐時代				
第7回	隋唐時代				
第8回	隋唐時代				
第9回	隋唐時代				
第10回	隋唐時代				
第11回	隋唐時代				
第12回	宋代以後の仏教				
第13回	宋代以後の仏教				
第14回	朝鮮半島（海東）の仏教				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『インド・中国・日本仏教通史 [新版]』平川彰著（春秋社）2006年。参考書：『新中国仏教史』鎌田茂雄著（大東出版社）2001年、『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎；2 中国・日本編 [改訂版]』大正大学仏教学科編（大正大学出版会）2016年、『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年。辞書・事典類：『中国仏教史辞典』鎌田茂雄編（東京堂出版）1981年、『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会編（丸善出版）2012年、『仏教の事典』末木文美士他編集（朝倉書店）2014年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
2007年より(社)法華弘通会(大韓民国)の奨学研究員として研究を行う。仏教学研究に対する姿勢について示教していく。					



対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目		
講義名	[01136] 日本仏教概論【資格06136】						
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
紀元前5世紀、仏陀によって開かれた仏教は、その後東漸して、西域を伝わって中国から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。これは6世紀のことで、日本における仏教伝来といわれるできごとである。以降、仏教は日本社会に定着していくが、本講義では、仏教伝来から明治仏教までを概説する。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
日本に伝来した仏教がどのように社会に定着し、日本社会に天海していったのか理解することを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
テキストの他に随時プリントや参考資料を提供し、授業を進めることにする。ビデオ・DVDといった映像資料や画像資料も活用する。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
この授業では、毎回120分以上の事前・事後学修を行うこと。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小テスト（60%）、学力確認テスト（10%）、授業に取り組む姿勢（30%）によって評価する。授業中に随時小テストを行うので出席が重要となる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	授業の概要						
第2回	古代仏教：仏教伝来						
第3回	古代仏教：聖徳太子と飛鳥文化						
第4回	奈良仏教：国分寺と東大寺						
第5回	奈良仏教：律令制下の仏教						
第6回	平安仏教：天台真言宗の成立						
第7回	鎌倉仏教：浄土系の展開						
第8回	鎌倉仏教：禅系の展開						
第9回	鎌倉仏教：法華系の展開						
第10回	室町仏教：禅宗の展開と教団一揆						
第11回	安土桃山仏教：織豊政権と仏教						
第12回	江戸仏教：幕藩体制と仏教						
第13回	江戸仏教：庶民仏教の展開						
第14回	明治仏教：神仏分離と廃仏毀釈						
第15回	総括						
<b>【教科書・参考書】</b>							
教科書：千葉乗隆・北西弘・高木豊共著『仏教史概説～日本篇』（平楽寺書店）1969年。参考書：辻善之助『日本仏教史』10巻（岩波書店）1969年、末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』（新潮社）1992年、平岡定海他『日本仏教史年表』（雄山閣）1999年、大野達之助編『日本仏教史辞典』（東京堂出版）1979年、図説『日本仏教の歴史』飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代（佼成出版）1996年。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 基本的には毎回小テストを行うので授業に出席すること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。							
<b>【実務経験】</b>							
日蓮宗の教師資格があり、高等学校（日本史）教員の経験あり。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01137] 東南アジア仏教概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
インドからスリランカを経由して、東南アジア全域に広がっていった上座仏教の歴史について概観し、その後、現在成立している国々の仏教事情を詳述する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
大乘仏教とは違った発展をしている東南アジア仏教国について、思想的な特徴を認識し、歴史の変遷を理解し、その上で各国の現代仏教事情を儀礼と習俗、政治と仏法との関係から論じられるようになることを目的とする。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
講義形式で行う。IWBまたはプロジェクターと配布資料を用いて、解説を加える。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。学習内容は、その都度配布される資料またはファイルキャビネットから当該の授業に必要な資料をダウンロードして活用すること。資料の指示は教員から予告される。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学期末試験レポート50%（各国の仏教の特徴を述べること）、授業での取組30%（事前学習で知った予備知識を用いてプレゼンテーションを行う）、中間レポート1回20%（東南アジア全般の仏教史が終わったところで、まとめのレポートを課す）。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の進め方、上座仏教とは何か？			
第2回	仏教の伝播、インドからスリランカへ			
第3回	上座仏教の戒律			
第4回	上座仏教の教義			
第5回	東南アジア仏教史ーシュリービジャヤ王国と島嶼部			
第6回	東南アジア仏教史ークメール以前の半島部と仏教			
第7回	東南アジアの仏教に関する調べ学習発表会			
第8回	スリランカ仏教史			
第9回	スリランカ仏教史 植民地時代～現代の仏教事情			
第10回	ミャンマー仏教史			
第11回	ミャンマー仏教史 と現代の仏教事情			
第12回	カンボジア仏教史と現代の仏教事情			
第13回	タイとラオスの仏教史			
第14回	タイとラオスの仏教史 と現代の仏教事情			
第15回	ベトナム仏教史と現代の仏教事情、まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキストは特に指定しない。各国仏教の情報についてはその都度紹介する。辞書は、パーリ学仏教文化学会上座仏教事典編集委員会編「上座仏教事典」（めこん）を利用すること。PPのファイルはファイルキャビネットに納めるので、その都度ダウンロードして、事前学修に用いること。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
仏教通史、インド仏教史を履修済みであること。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01138] チベット仏教概論			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	望月 海慧	モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地である。その仏教伝承から、チベット仏教の各宗派の歴史と思想、および内陸アジアにおける展開について解説する。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地域である。それ故に、チベットの仏教を理解することで今は滅びてしまったインドの大乗仏教の様子を知ることができる。また、チベット仏教を理解することで、現在の日本仏教の在り方を再認識することができる。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
教科書に従って、チベット仏教を講義する。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト70%、授業への取り組み30%で評価を行う。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	チベットの文化			
第2回	チベットの歴史			
第3回	インド仏教の受容			
第4回	カダム派			
第5回	ニンマ派			
第6回	カギュ派			
第7回	シチェ派			
第8回	サキャ派			
第9回	チョナン派			
第10回	ゲルク派			
第11回	ボン教			
第12回	中国西域仏教			
第13回	モンゴル仏教			
第14回	現代のチベット			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
教科書：『チベット仏教思想史』望月海慧（身延山大学）1998年。参考書：『新アジア仏教史09チベット 須弥山の仏教世界』（佼成出版社）2010年。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
チベット仏教は現在も存在する仏教なので、実際にチベットの僧院を訪問し、どのような仏教なのかを体験してもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目		
講義名	[01171] 仏教学 (中観)				
期間	前期 (15回)	単位数	選択 (2)	種類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
我などの存在の基盤となるものを徹底的に批判することで、仏教の基本的教義である縁起・空性思想を論証しようとしたナーガールジュナの中観思想について解説をする。テキストとしてアティシャの『菩提道灯論』を用いて講義する。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
本講義は、インドにおける大乘仏教の2大学派のうち、ナーガールジュナを開祖とする中観学派の思想を講義する。彼らが釈尊の教えをどのように解釈したのかを理解することにより、インド大乘仏教の思想史を理解することを目標とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
授業では、アティシャの『菩提道灯論』に基づいて講義を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
期末試験70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	ナーガールジュナと『中論』				
第3回	パーヴィヴェーカとチャンドラキールティ				
第4回	カマラシーラとシャーンタラクシタ				
第5回	ハリパドラとアピサマヤ文献				
第6回	アティシャと三宝帰依				
第7回	三種のブドガラ				
第8回	三宝帰依				
第9回	発菩提心				
第10回	小乗戒				
第11回	菩薩戒				
第12回	神通と止観				
第13回	空性論証				
第14回	金剛乗				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：望月海慧『全訳アティシャ 菩提道灯論』(起心書房)2015年。参考書：桂紹隆他『シリーズ大乘仏教6 空と中観』(春秋社)、平川彰他『講座・大乘仏教7 中観思想』(春秋社)1982年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[01172] 仏教学 (唯識)				
期 間	後期 (15回)	単 位 数	選 択 (2)	種 類	講 義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
<p>仏教の基本的教義である縁起・空性思想を心のあり方により分析した唯識思想について、アサンガが著した『撰大乘論』に基づいて解説する。</p>					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
<p>本講義は、インドにおける大乘仏教の2大学派のうち、マイトレーヤ、アサンガを開祖とする唯識学派の思想を講義する。彼らが釈尊の教えをどのように解釈したのかを理解することにより、インド大乘仏教の思想史を理解することを目標とする。</p>					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
<p>授業では、アサンガの『撰大乘論』に基づいて唯識思想の各教義について講義を行う。</p>					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
<p>この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。</p>					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
<p>期末レポート 70%、授業に取り組む姿勢 30%</p>					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	オリエンテーション				
第2回	マイトレーヤトアサンガ				
第3回	ヴァスバンドゥ				
第4回	唯識思想の展開				
第5回	アーラヤ識説				
第6回	三性説				
第7回	唯識性				
第8回	六波羅蜜				
第9回	十地				
第10回	菩薩戒				
第11回	禅定				
第12回	無分別智				
第13回	涅槃				
第14回	三身説				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
<p>参考文献：長尾雅人『撰大乘論 上・下』講談社、上田義文『撰大乘論講読』春秋社、勝呂信静・下川辺季由『新国訳大蔵経 撰大乘論釈』大蔵出版。</p>					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
<p>仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。</p>					
<b>【オフィスアワー】</b>					
<p>月曜日第3時限並びに木曜日第3時限</p>					
<b>【実務経験】</b>					
<p>日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授</p>					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教学系科目	
講義名	[01173] 仏教学特講 【資格06173】			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
本授業では、カリキュラムポリシーを踏まえて、英語で書かれた欧米の仏教に関する思想書を輪読し、割り当てられた箇所の和訳を数回行い、翻訳能力を培い、ディプロマポリシーに見合った英語の読解力を養う。				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
欧米で書かれた現代の仏教事情を論じている研究書を読むことで、専門的な語学力をスキルアップすることを目標とする。また、欧米の仏教学研究状況を知るだけでなく、仏教用語の翻訳を通して外国語による仏教思想の理解を深め、専門用語の表現方法を獲得する。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
授業では、英文テキストを講読するだけでなく、欧米の仏教学研究の現状や仏教用語の解説も行う。指定したテキストの通読を中心に進める。学生一人一人に翻訳箇所を指定し、必ず複数回の発表が課される。発表の後は、そのパラグラフの持つ意味を述べて、ディスカッションを英語で行う。一人の持ち時間は15分とする。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行い、事前学習は十分な翻訳作業をすることと、発表後に提起する割り当て箇所の問題となる内容を明らかにしておくこと。事後学習では、咀嚼が充分でなかった箇所の再確認とディスカッションで得られた知識を整理しておくこと。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
学力確認テスト50%（授業の中間と最後に各自持ち時間10分で内容の総括と問題提起を英語で行い質疑応答も英語で10分行う）、授業への取り組み50%（授業時間中の発表内容と英語での質疑応答）で評価を行う。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	テキストの紹介と成績評価の考え方			
第2回	テキスト講読と発表、解説			
第3回	テキスト講読と発表、解説			
第4回	テキスト講読と発表、解説			
第5回	テキスト講読と発表、解説			
第6回	テキスト講読と発表、解説			
第7回	テキスト講読と発表、解説			
第8回	中間発表会（発表内容の要旨を述べる）			
第9回	テキスト講読と発表、解説			
第10回	テキスト講読と発表、解説			
第11回	テキスト講読と発表、解説			
第12回	テキスト講読と発表、解説			
第13回	テキスト講読と発表、解説			
第14回	テキスト講読と発表、解説			
第15回	総括と問題提起発表会			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：S.Sivaraksa, Conflict, Culture, Change: engaged buddhism in a globalizing world, Wisdom Publication, Boston, 2005.				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
語学力は自分で辞書を引かなければ身につけません。しかし身についた力は、将来必ず役立ちます。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員				

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[01174] 仏教学特講 【資格06174】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義と演習
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
中国の5～8世紀に著された漢文と、その注釈書を読みこみ、時代背景と照らし合わせて、思想の変遷と専門用語に精通する。使用するテキストは「大乘起信論」である。この本文を受講生に割り当て、1回に10行ほど、後半には20行ほどの段落毎に和訳して、解説してもらう。キーワード：大乘起信論、大乘起信論義疏、起信論海東疏、覚、本覚、如来蔵				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
「大乘起信論」は、インドのアシュヴァゴーシャ（馬鳴）の著作とされているが、その成立問題について長く議論されており、中国撰述説が有力となっている。本論の講読と2種の注釈書を参照して、東アジアに大きな影響を与えた如来蔵思想の理解を深め、日本仏教の本覚思想の源泉となった理論を理解することと、仏教漢文を読み込む力を養う。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
授業では、馬鳴の「大乘起信論」と2種の注釈書（いずれも漢文テキスト）を配布して、各自の担当を割り当て、それを学生自らが事前学習により調べた読み下しとその意味を解説し和訳を発表する。教員はその内容の不足を補い、如来蔵思想について講義を行う。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
事前・事後学修とも2時間以上を目途に十分な読解を行うこと。事前学修では白文を書き下し、注釈書を参考にしてその意味を調べる。事後学修では、難語を中心にその意味を大漢和辞典などを活用して例を調べ、表意文字から文意を理解できるようにすること。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
授業への取り組み50%（授業時間中の発表内容と質疑応答の適正）をルーブリック方式により評価する。授業の中間と最後に、自分の発表した内容から一つを選び、さらに詳細な解説を行う。1人の所要時間は20分とする。25%×2回。評価は、ルーブリック方式による。シートは事前に示す。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	授業の進め方と評価方法の説明。テキストの紹介と成立の背景、その後の思想的影響。発表者の割当て2回分。			
第2回	テキスト講読と解説			
第3回	テキスト講読と解説			
第4回	テキスト講読と解説			
第5回	テキスト講読と解説			
第6回	テキスト講読と解説			
第7回	テキスト講読と解説			
第8回	中間発表			
第9回	テキスト講読と解説			
第10回	テキスト講読と解説			
第11回	テキスト講読と解説			
第12回	テキスト講読と解説			
第13回	テキスト講読と解説			
第14回	テキスト講読と解説			
第15回	学期末発表（まとめ）			
<b>【教科書・参考書】</b>				
テキスト：大乘起心論（大正新修大蔵経 No,1666）。参考文献：宇井伯寿『大乘起信論』岩波文庫。平川彰『大乘起信論』大蔵出版など。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
『大乘起信論』の成立問題は、仏教学研究において近年で最も注目されているテーマである。最新の研究を知ること、仏教の研究方法を身につけてもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日2時限目、金曜日4・5時限目、質問はemailでも可(ikegami(a)min.ac.jp.)				
<b>【実務経験】</b>				
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[01202] 読経				
期間	通年（30回）		単位数	選択（2）	
種類	演習（全期）				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi
	振屋 裕匡		フルヤ コウキョウ		furuya yukyo
	古谷 晃淳		フルヤ コウジュン		furuya koujyun
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
現在までの檀林や門流の教育が受け継ぎ残された結果、法華経の読み方、読み癖について多種多様あり、教育法も師子相承に任され、曖昧な点が多い。また読経上において、本宗の依経である法華経三部経というものが軽視されつつあるので、三部経の転読・読経実践につとめたい。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本講義受講により『妙法蓮華経』開結を含めた読誦が可能となることを目的とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
一々文々で繰り返し（オウム返し）にて、読経練習を行なう。できれば、前期で2～3巻は講読したい。講義の都合上、巻数等の前後があるので注意してほしい。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習（120分以上） 次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。事後学習（120分以上） 読んだ部分を反復学習すること。特に事後学習は必ず行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
読経態度50%、授業への取り組み姿勢20%、修得度30%。受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	五の巻 提婆達多品第十二の練習				
第2回	五の巻 勸持品第十三の練習				
第3回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第4回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第5回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第6回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第7回	六の巻 如来寿量品第十六の練習				
第8回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第9回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第10回	六の巻 随喜功德品第十八の練習				
第11回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第12回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第13回	七の巻 常不輕菩薩品第二十の練習				
第14回	七の巻 如来神力品第二一の練習				
第15回	七の巻 囑累品第二二 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第16回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第17回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三・妙音菩薩品第二四の練習				
第18回	七の巻 妙音菩薩品第二四の練習				
第19回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第20回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第21回	八の巻 陀羅尼品第二六の練習				
第22回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習				
第23回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習・普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第24回	八の巻 普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第25回	結経（一）				
第26回	結経（二）				
第27回	結経（三）				



第28回	結経（四）
第29回	読経試験
第30回	読経試験
<b>【教科書・参考書】</b>	
<p>三部経本  お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備して下さい。お経本の種類は問いません。  お経品をお持ちでない方は、堀之内妙法寺版・振屋昌光監修『妙法蓮華経三部経』の購入を推奨します。</p>	
<b>【学生へのメッセージ】</b>	
<p>授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正可能な赤ペン）持参のこと。僧侶としての最低ラインと認識し、今後絶対に必要なことであるので授業以外にも練習を繰り返し行なってほしい。</p>	
<b>【オフィスアワー】</b>	
<p>木村中一：火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）  振屋裕匡：授業の前後に教室にて受け付ける  古谷晃淳：授業の前後に教室にて受け付ける</p>	
<b>【実務経験】</b>	
<p>木村中一：宗教法人法養寺代表役員  振屋裕匡：宗教法人長福寺副住職  古谷晃淳：宗教法人童仙寺副住職</p>	

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[01203] 法要実践				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	--	
担当者	村上 通明	ムラカミ ツウミョウ			murakami tsumyou
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定7曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な法具の扱いや、鳴らし物の扱いを実習する。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式の理念を学ぶ。その理念に基づいて、大学の実習室及び身延山の堂宇を使用して、宗定声明七曲の誦唱法と所作等の習礼を行う。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習120分：受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学習120分：受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
学力確認テスト20%、授業への取り組み姿勢80%で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	「宗定日蓮宗法要式」の歴史と理念について・二大得意・音調と発声法				
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第3回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第4回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文				
第5回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（道場偈・三宝礼）・発声法				
第6回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（切散華・呪讃）・発声法				
第7回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（対揚）・発声法				
第8回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（三帰・奉送）・発声法				
第9回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第10回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（十正修）				
第11回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第12回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）				
第13回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・勧請文・回向文				
第14回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・朝昏礼誦式				
第15回	法要実習・まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：『宗定日蓮宗法要式』、担当教員作成のプリント、参考書：宮崎英修編著「新編日蓮宗信行要典」平楽寺書店、CD日蓮宗声明、優陀那院日輝和上著「充治園禮誦儀記」、「日蓮宗事典」、「妙行日課」平楽寺書店、原文対訳「立正安国論」大東出版社。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。受講後は内容の習得が得られるよう反復すること。授業中に指示した各関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため、受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
毎週金曜日4時限目の授業の前後に教室で受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗声明師会講師17年、信行道場の指導10年					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[01271] 寺院運営				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	丸茂 龍正	マルモ リュウショウ		marumo ryusho	
	生駒 雅幸	イコマ マサユキ		ikoma masayuki	
	山本 玄雄	ヤマモト ゲンユウ		yamamoto genyu	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
僧侶として学ばなければならないことは多々あるが、日蓮宗の教師、寺院教会の住職・担任を志す者は、宗門の一員として、社会の一員として学ばなければならない事柄はさらに多岐にわたります。僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を概説し、寺院運営或いは儀式等の課題と将来の具体的な目標を持つことができるよう講義を行います。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
本授業を受講することによって、僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を認識し、僧侶・宗教者としての視野を広げ、寺院運営或いは儀式等の課題と将来の具体的な目標を持つことができるようになります。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
様々な資料を使用し、宗教を取り巻く現状を認識し、総説的ガイダンスとともに、専門分野の先生を招き、効果的に授業を行い、理解を深めます。期末のレポートは、授業内容を踏まえた課題となりますので、よく集中して臨んでください。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。特に、事後の復習を行い、多岐にわたる授業内容をよく整理しておく必要があります。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
授業への取り組み姿勢（40%）、学力確認テスト（60%）で、総合的に判断します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	宗教をとりまく環境（その1）				
第3回	宗教をとりまく環境（その2）				
第4回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要（その1）				
第5回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要（その2）				
第6回	宗教法人の税制と経理				
第7回	人権教育				
第8回	日蓮宗の現状と課題（その1）				
第9回	日蓮宗の現状と課題（その2）				
第10回	日蓮宗の教育制度（その1）				
第11回	日蓮宗の教育制度（その2）				
第12回	寺院運営の現状と課題（その1）				
第13回	寺院運営の現状と課題（その2）				
第14回	寺院運営のリスクマネジメント				
第15回	総括				
<b>【教科書・参考書】</b>					
参考文献：日蓮宗宗制、日蓮宗宗報、日蓮宗新聞					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
専門分野の先生による貴重な内容も含まれます。特に日蓮宗の僧侶を志す学生は受講することを強く勧めます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業時間の前後に教室にて受け付けます					
<b>【実務経験】</b>					
丸茂龍正：宗教法人瑞泉寺代表役員 生駒雅幸：宗教法人安立院代表役員 山本玄雄：宗教法人妙蓮寺副住職					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[01272] 仏教音楽				
期 間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
雅楽音楽・聲明音楽					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本音楽の源流である雅楽は 宮廷音楽として また神社寺院において神仏諸尊に奏献する音楽として ほぼ形を変えることなく今日まで傳承されてきました。また聲明は 雅楽や俗楽などの影響を受けつつ 佛教音楽音楽として現在でも傳承されています。本講座においては 雅楽についての基礎的な知識を学び 雅楽の初段階を演習し また「延山流聲明」・「池山流聲明」「光山流聲明」など 日蓮宗古儀聲明を また極楽声歌に代表される聲明雅楽合奏曲などを演習し 日本の音楽文化の源流にふれるところにその目的があります。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業方法は「講義」（=K）と「実技」（=W）が中心となります。目標値は 雅楽については 雅楽に関する基礎知識を理解すること 各楽器で平調「越殿楽」1行目を演奏できるようにすること 舞楽の基本動作を理解すること 実際に雅楽装束や舞楽装束を着装することなどであります。聲明については日蓮宗古儀聲明を実唱します。また下記のような聲明雅楽合奏曲などにも触れてまいります。なお日蓮宗「宗定聲明」については他の講義と重複するので取り扱いません。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
音楽実技は一朝一夕に習得出来るものではないので 授業時間外にも各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましいと思われまます。さらにインターネット情報などによって 自らがその情報を活用調査研究し この講義に関係する諸事項を自発的に学修することを期待します。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
最終レポート提出40%・音楽実技=40%・受講姿勢=20%により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	講座「佛教音楽」開講に当たって・雅楽概論 K				
第2回	雅楽史 K				
第3回	箏策 1 W				
第4回	鳳笙 1 W				
第5回	雅楽聲明音律論 K				
第6回	龍笛 1 W				
第7回	打楽器・絃楽器1 W				
第8回	「越殿楽」合奏 1 W				
第9回	雅楽装束1 W				
第10回	公開授業準備 W				
第11回	聲明概論 K				
第12回	宮内庁式部職楽部の管絃と舞楽舞楽 V視聴				
第13回	新たな音楽法要の試み V視聴				
第14回	極楽声歌「老君子」・「萬歳楽・池の涼しき」・「三十二相散吟打毬楽」 W				
第15回	FAQ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義中に配布します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
雅楽楽器のいずれかを選択し、第10回公開講座に臨んで欲しい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の質問などはメールにて対応する。アドレスは第一回目の授業の折に周知する。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗聲明師、雅楽師、宗教法人延命院代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[01273] 仏教音楽				
期間	前期（15回）	単位数	必修（2）	種類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
雅楽音楽・聲明音楽					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
日本音楽の源流である雅楽は 宮廷音楽として また神社寺院において神仏諸尊に奏献する音楽として ほぼ形を変えることなく今日まで傳承されてきました。また聲明は 雅楽や俗楽などの影響を受けつつ 佛教音楽音楽として現在でも傳承されています。本講座においては 雅楽についての基礎的な知識を学び 雅楽の初段階を演習し また「延山流聲明」・「池山流聲明」「光山流聲明」など 日蓮宗古儀聲明を また極楽声歌に代表される聲明雅楽合奏曲などを演習し 日本の音楽文化の源流にふれるところにその目的があります。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
授業方法は「講義」（=K）と「実技」（=W）が中心となります。目標値は 雅楽については 雅楽に関する基礎知識を理解すること 各楽器で平調「越殿楽」1行目を演奏できるようにすること 舞楽の基本動作を理解すること 実際に雅楽装束や舞楽装束を着装することなどです。聲明については日蓮宗古儀聲明を実唱します。また下記のような聲明雅楽合奏曲などにも触れてまいります。なお日蓮宗「宗定聲明」については他の講義と重複するので取り扱いません。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
音楽実技は一朝一夕に習得出来るものではないので 授業時間外にも各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましいと思われます。さらにインターネット情報などによって 自らがその情報を活用調査研究し この講義に関係する諸事項を自発的に学修することを期待します。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
最終レポート提出 = 40% ・ 音楽実技 = 40% ・ 受講姿勢 = 20% により総合評価します。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	雅楽概論 K				
第2回	唱歌「越殿楽」 W				
第3回	箏策 2 W				
第4回	鳳笙 2 W				
第5回	舞楽概論と舞 K・W				
第6回	龍笛 2 W				
第7回	打楽器・絃楽器 2 W				
第8回	「越殿楽」合奏 2 W				
第9回	雅楽装束 2 W				
第10回	公開授業 W				
第11回	朗詠「嘉辰」 W				
第12回	延山流「回向伽陀」・「法華讚歎」 W				
第13回	池山流「回向伽陀」・「本咒讚」・「初伽陀」 W				
第14回	光山流「初伽陀」				
第15回	レポート作成				
<b>【教科書・参考書】</b>					
講義中に配布します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
雅楽楽器のいずれかを選択し、第10回公開講座に臨んで欲しい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の質問などはメールにて対応する。アドレスは第一回目の授業の折に周知する。					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗聲明師、雅楽師、宗教法人延命院代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[01274] 布教実践				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho	
	松本 学亮	マツモト ガクギョウ		matsumoto gakugyou	
	今井 真行	イマイ シンギョウ		imai shingyo	
	深澤 恭徳	フカサワ キョウトク		fukasawa kyotoku	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
3人の教員が担当し、言説布教6回、修法布教6回、海外布教3回実施し、布教の理念と方法について講義を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
授業中に講義した日蓮宗の布教方法について理解することを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
3人の教員がそれぞれ最初の授業に具体的な授業内容を提示する。最後に3先生の講義内容をレポートし、提出してもらう。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
各教員のレポート点（50%）、提出物（30%）、授業姿勢・態度（20%）					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	布教方法				
第2回	修法布教その1 「祈りと禱り」祈禱修法概説1				
第3回	修法布教その2 「祈りと禱り」祈禱修法概説2				
第4回	修法布教その3 日蓮宗の祈禱と歴史1				
第5回	修法布教その4 日蓮宗の祈禱と歴史1				
第6回	修法布教まとめ				
第7回	海外布教その1 自分の信ずる法華経の教えは世界に通用するか？ 自らが信ずる法華経は本当に世界に通用するものなのか？世界に普遍的な教えなのか？もしそうでなかったら一生を捧げる価値もない。でももしそうだったら、僧侶として意義ある一生が送れる。				
第8回	海外布教その2 世界に広まる南無妙法蓮華経（言語のバリアは空である） 創価学会が世界に広がり、その浅薄な物質主義が暴かれた時、人々は真の南無妙法蓮華経の模索を始めた。それは日蓮宗もカバーできないほどの勢いで…。世界中に広がる禅と題目の宗教を実感する。お経も今は真読・訓読と英読もあるのだ。				
第9回	海外布教その3 今後の日蓮宗国際布教の立ち位置 国際化する世界で以前とは違った布教形態で国際布教に挑み続ける日蓮宗の国際布教師の活動の実態と、将来の展開を読む。				
第10回	言説布教その1				
第11回	言説布教その2				
第12回	言説布教その3				
第13回	言説布教その4				
第14回	言説布教その5				
第15回	言説布教まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書、参考書はそれぞれの教員が最初の授業の折に示すことにする。修法布教：宮崎英修著『わかりやすい日蓮宗の御祈禱』鎌倉新書・日蓮宗事典					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
担当教員の都合により、授業が入れ替わる場合があるが、その際はわかった時点で受講生に連絡するので対応してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
担当教員の授業開始前、終了後に質問等があれば教室で対応する。					

**【実務経験】**

望月真澄：日蓮宗の教師資格あり。

松本学亮：日蓮宗の修法師資格を有し、寺院で布教活動を実践。

今井真行：海外布教の経験があり、現在も海外布教を実践。

深澤恭徳：日蓮宗布教師の資格を有し、寺院で布教活動を実践。

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[01275] 布教実践				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho	
	飯室 智光	イイムロ チコウ		iimuro chikou	
	浜島 典彦	ハマジマ テンゲン		hamajima tengen	
<b>【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】</b>					
2人の教員により日蓮宗の布教方法に関する授業を行う。授業内容は、曼荼羅本尊書写8回、書写行5回、唱題行2回とする。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
曼荼羅本尊を書写し、書写行や唱題行の方法論等を学び、それぞれひとりで実践できるようになることを目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
それぞれの教員に授業内容は任せてあるので、各担当教員の最初の授業で内容を示すことにする。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
各教員のレポート点（50%）、提出物（30%）、授業態度・姿勢（20%）で評価する。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	唱題行 その1 教理概説				
第2回	唱題行 その2 作法と実践				
第3回	書写行 その1				
第4回	書写行 その2				
第5回	書写行 その3				
第6回	書写行 その4				
第7回	書写行 その5				
第8回	曼荼羅本尊の書写 その1				
第9回	曼荼羅本尊の書写 その2				
第10回	曼荼羅本尊の書写 その3				
第11回	曼荼羅本尊の書写 その4				
第12回	曼荼羅本尊の書写 その5				
第13回	曼荼羅本尊の書写 その6				
第14回	曼荼羅本尊の書写 その7				
第15回	曼荼羅本尊の書写 まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
書写行では、『写経セット』小池英淳監修（日蓮宗新聞社）を使用する。購入希望者は後期授業開始前に学務に申し出ること。その他の参考書については、各担当教員の講義の折に紹介する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
担当教員の都合により授業日程を変更する可能性があるが、その際は事前に受講生に連絡するので対応してもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業開始前、終了後に質問等を担当教員が教室で受け付ける。					
<b>【実務経験】</b>					
望月真澄：日蓮宗の教師資格があり、寺院で布教活動を実践。 飯室智光：日蓮宗の教師資格があり、寺院で布教活動を実践。 浜島典彦：日蓮宗の教師資格があり、寺院で布教活動を実践。					



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01732] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合っ決めてください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01735] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）	種 類	実習（全期）
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われれます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
<b>【教科書・参考書】</b>					
特になし。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合っ決めてください。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01738] インターンシップ						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習（全期）
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特になし。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01741] インターンシップ						
期 間	通年（1回）		単 位 数	必修（2）		種 類	実習（全期）
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計10日間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏めること。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。						
<b>【教科書・参考書】</b>							
特になし。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）							
<b>【実務経験】</b>							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01748] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>							
就職支援							
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
<b>【教科書・参考書】</b>							
講義はプリントを配布します。							
<b>【学生へのメッセージ】</b>							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
<b>【オフィスアワー】</b>							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
<b>【実務経験】</b>							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01749] キャリア教育			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類 演習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	淡路 実春	アワジ ミハル		awaji miharu
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
就職支援				
<b>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</b>				
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになります。また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。				
<b>【授業方法（フィードバックの内容）】</b>				
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。				
<b>【授業外学修の方法（時間数）】</b>				
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。				
<b>【成績評価（方法・基準）】</b>				
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。				
<b>【授業計画（各回の授業内容）】</b>				
第1回	就職活動のプロセス			
第2回	自己分析その1			
第3回	自己分析その2			
第4回	企業研究とマッチング			
第5回	志望動機			
第6回	自己アピール			
第7回	履歴書の書き方			
第8回	お礼状の書き方			
第9回	面接の種類と対策			
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ			
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する			
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答			
第13回	ディスカッションその1			
第14回	ディスカッションその2			
第15回	総括（小論文）			
<b>【教科書・参考書】</b>				
毎講義時にプリントを配布します。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。				
<b>【実務経験】</b>				
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01876] ゼミナール (望月海慧)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
インド・チベットの仏教文献を購読し、それをテーマにした卒業論文を執筆するための指導を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
仏教学の基本的研究方法は文献学的手法である。古典聖典を正確に読むことから仏教の学習は始まる。このゼミナールでは、web上でのデータの入手方法の説明から始まり、それらを利用してインドで書かれた仏教文献を諸版を対照しながら正確に読む力を修得することを目的とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
テキストとして用いる文献を、最新の研究成果を取り入れて読み進む。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
期末試験70%、授業への取り組み30%で評価を行う。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	問題の所在とテキストの解説				
第2回	近年の研究状況の説明				
第3回	テキスト講読				
第4回	テキスト講読				
第5回	テキスト講読				
第6回	テキスト講読				
第7回	テキスト講読				
第8回	テキスト講読				
第9回	テキスト講読				
第10回	テキスト講読				
第11回	テキスト講読				
第12回	テキスト講読				
第13回	テキスト講読				
第14回	テキスト講読				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
学生と相談の上、興味がある分野の文献を選択するので、テキスト・参考文献が後日指定する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
仏教の基本は、語学学修である。それゆえに中国語・サンスクリット語だけでなく、英語・ドイツ語・フランス語などの基本的言語の文献も読めるようになってもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01881] ゼミナール (木村中一)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、演習を主として研究文献及び史料の講読を行う。本ゼミ受講によって、主として日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する史料もあわせての研究方法を理解することが出来る。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
事前に出題させる課題についての学修 (120分以上)。受講後の理解の深めと応用方法学修 (120分以上)。随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
レポート30%・発表30%・授業への参加姿勢40%。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	研究方法 (その1)				
第2回	同上 (その2)				
第3回	参考文献の使用法と検索法				
第4回	同上 (その2)				
第5回	同上 (その3)				
第6回	研究文献及び史料の講読				
第7回	同上 (その2)				
第8回	同上 (その3)				
第9回	同上 (その4)				
第10回	同上 (その5)				
第11回	テーマの設定				
第12回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第13回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第14回	研究文献及び史料について (発表)				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
随時指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表してもらおうので問題意識をもって受講してもらいたい。ゼミナール との連続授業である。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					



対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01882] ゼミナール (金炳坤)				
期 間	前期 (15回)	単 位 数	必修 (2)	種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byung kon	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
3年次編入学生が対象になります。この先2年間「仏教」を「学問」として「研究」していくための基礎学力を身につけさせるべく、仏教学の基本的な知識を教授し、ゼミナール・卒業論文につなげていきます。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
今後の「ライフワーク」となり得る「研究テーマ」を「選定」することが目標となります。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
仏教の基本 (三宝) となる釈尊伝 (仏) にはじまり、仏教の根本思想 (法) や仏教々団の展開 (僧) について概説し、その先に「仏教とは何か」という問いのもと、各自の研究領域を定めていきます。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。毎回の授業で課題が出されますので、次回の授業で発表 (成績評価の対象) できるように勉強してください。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
授業への取り組み姿勢 (20%)、課題提出 (40%)、研究発表 (40%) により総合評価します。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	メールの使い方				
第3回	ワープロの使い方				
第4回	見出し・脚註等の付け方				
第5回	参考文献の書き方				
第6回	仏教の誕生を知る				
第7回	同上				
第8回	同上				
第9回	仏教の根本思想を知る				
第10回	同上				
第11回	同上				
第12回	仏教の時間的・空間的広がりを知る				
第13回	同上				
第14回	同上				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書：資料を配付します。参考書：『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所編 (平楽寺書店) 1985年、『仏教とはなにか：その歴史を振り返る』大正大学仏教学科編 (大法輪閣) 1999年、『仏教とはなにか：その思想を検証する』大正大学仏教学科編 (大法輪閣) 1999年。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01885] ゼミナール (岡田文弘)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
この授業では日本仏教の文献を講読し、日本仏教に関する理解を深めるとともに、研究を行う上での文献の基本的な扱い方・調べ方などを身につけることをねらい・目標とします。まず仏教の基本的な知識を概説した後、実際に史料を読むトレーニングをしていきます。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
日本仏教の史料を読解する力 (それに付随して、資料収集などの方法) を身につけることを目的とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
しばらくは日本仏教について概説的な説明を行ないます (その中で、自身の興味ある分野を見つけ、考えを深めておいてください)。その後、教員が指示した文献 (凝然『八宗綱要』や日蓮遺文などを予定)、もしくは受講生の希望を反映した文献を選定し、それを読解していきます。読解の際には、毎週発表担当を決め、簡単な資料を作成してきてもらいます。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。特に事前の学習では、文献を十分に読解し分からない単語を調べておく等、しっかりと準備をしておくこと。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
授業への参画30%、発表70%					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	仏教概論				
第3回	仏教概論				
第4回	仏教概論、各人の興味関心のアンケート				
第5回	講読文献とレジメ作成方法の指示、発表者割り当て				
第6回	発表				
第7回	発表				
第8回	発表				
第9回	発表				
第10回	発表				
第11回	発表				
第12回	発表				
第13回	発表				
第14回	発表				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
平川彰『仏典講座 八宗綱要』(大蔵出版、2004)、末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996)、養輪顕量『日本仏教史』(春秋社、2015)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文	
講義名	[01887] ゼミナール (桑名法晃)			
期 間	前期 (15回)	単 位 数	必修 (2)	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	桑名 法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>				
日蓮聖人教学・日蓮教学史の文献を講読し、各受講生のテーマに沿い卒業論文を執筆するための指導をしていく。				
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>				
日蓮聖人教学・日蓮教学史の史料を読解する力、資料収集方法・先行研究の整理等、卒業論文を執筆するにあって必要となる力を身につけることを目標とする。				
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>				
テキストとして用いる文献を講読する。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。				
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>				
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。特に事前の学修では、テキストとして用いる文献を読み分らない語句等について調べておくこと。				
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>				
レポート30%、発表30%、授業への参加姿勢40%。				
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>				
第1回	ガイダンス			
第2回	研究方法 その1			
第3回	研究方法 その2			
第4回	資料収集方法			
第5回	資料収集と整理法			
第6回	テキスト講読 その1			
第7回	テキスト講読 その2			
第8回	テキスト講読 その3			
第9回	テキスト講読 その4			
第10回	テキスト講読 その5			
第11回	テキスト講読 その6			
第12回	テキスト講読 その7			
第13回	研究テーマ設定			
第14回	発表			
第15回	まとめ			
<b>【教科書・参考書】</b>				
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。				
<b>【学生へのメッセージ】</b>				
テキストをわかるようになるまで何度も読み込んでもらいたい。				
<b>【オフィスアワー】</b>				
火曜日 1 時限目と木曜日 5 時限目				
<b>【実務経験】</b>				
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01976] ゼミナール (望月海慧)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	望月 海慧		モチヅキ カイエ	mochizuki kaie	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
インド・チベットの仏教文献を購読し、それをテーマにした卒業論文を執筆するための指導を行う。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
仏教学の基本的研究方法は文献学的手法である。古典聖典を正確に読むことから仏教の学習は始まる。このゼミナールでは、web上でのデータの入手方法の説明から始まり、それらを利用してインドで書かれた仏教文献を諸版を対照しながら正確に読む力を修得することを目的とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
テキストとして用いる文献を、最新の研究成果を取り入れて読み進む。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
事前・事後の学修には、それぞれ2時間以上確保すること。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
学力確認テスト70%、授業に取り組む姿勢30%で評価を行う。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	問題の所在とテキストの解説				
第2回	近年の研究状況の説明				
第3回	テキスト講読				
第4回	テキスト講読				
第5回	テキスト講読				
第6回	テキスト講読				
第7回	テキスト講読				
第8回	テキスト講読				
第9回	テキスト講読				
第10回	テキスト講読				
第11回	テキスト講読				
第12回	テキスト講読				
第13回	テキスト講読				
第14回	テキスト講読				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
学生と相談の上、興味がある分野の文献を選択するので、テキスト・参考文献が後日指定する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
仏教の基本は、語学学修である。それゆえに中国語・サンスクリット語だけでなく、英語・ドイツ語・フランス語などの基本的言語の文献も読めるようになってもらいたい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01981] ゼミナール (木村中一)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、演習を主として研究文献及び史料の講読を行う。本ゼミ受講によって、主として日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する史料もあわせての研究方法を理解することが出来る。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
事前に出題させる課題についての学修 (120分以上)。受講後の理解の深めと応用方法学修 (120分以上)。随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
レポート30%・発表30%・授業への積極的参加姿勢40%。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	研究方法 (その1)				
第2回	同上 (その2)				
第3回	参考文献の使用法と検索法				
第4回	研究文献及び史料の講読				
第5回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第6回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第7回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第8回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第9回	研究文献及び史料について (受講生発表)				
第10回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第11回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第12回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第13回	研究文献及び史料について (受講生発表用意)				
第14回	研究文献及び史料について (受講生発表)				
第15回	まとめ 卒業論文執筆に向けて				
<b>【教科書・参考書】</b>					
随時指示する。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表を行うので問題意識をもって受講してもらいたい。ゼミナールとの連続授業である。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)					
<b>【実務経験】</b>					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01982] ゼミナール (金炳坤)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byung kon	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
4年次の卒論執筆に向けた「基礎研究」(資料の蒐集と講読)を行います。個々との相談のうえ、各々に適した指導を行っていきます。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
「事例研究」の「エキスパート」を目指します。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
当該研究分野に対する学界の動向を概説し、研究手法を習得させ、個々の論文作成のためのスキルアップを伝授していきます。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。事前学修では、次回の授業内容に沿って課題を作成し、発表の用意をしてください。事後学修では、授業中に指摘された訂正箇所を卒論に反映し、与えられた課題をしっかりとこなしてください。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
授業への取り組み姿勢 (20%)、課題提出 (40%)、研究発表 (40%) により総合評価します。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	資料収集とレポート作成				
第3回	資料収集とレポート作成				
第4回	資料収集とレポート作成				
第5回	中間発表				
第6回	資料収集とレポート作成				
第7回	資料収集とレポート作成				
第8回	資料収集とレポート作成				
第9回	資料収集とレポート作成				
第10回	中間発表				
第11回	資料収集とレポート作成				
第12回	資料収集とレポート作成				
第13回	資料収集とレポート作成				
第14回	資料収集とレポート作成				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
教科書・参考書：各自のテーマに即した資料を研究の進み具合に応じてその都度指示します。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
知性：行住坐臥と恒に研究テーマに向き合い論理的に思考すること。理性：時間は計画的に効率よく有効に使うこと。感性：あくまで自分が主で教員はアドバイザーにすぎぬ事実を認識すること。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01985] ゼミナール (岡田文弘)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日本仏教に関連する史料の講読を進めていきます。教員指示の文献、もしくは受講生が興味のある文献を題材とし、毎週担当を決めて発表し、読解していきます。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
日本仏教の史料を読解する力 (それに付随して、資料収集などの方法) を身につけることを目的とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
毎週担当を決め、レジメの作成と発表を行なってもらいます。それについて講師の補足説明、そしてディスカッションを行います。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。特に事前の学習では、文献を十分に読解し分からない単語を調べておく等、しっかりと準備しておくこと。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
授業への参画30%、発表70%					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	ガイダンス、発表割り当て				
第2回	発表				
第3回	発表				
第4回	発表				
第5回	発表				
第6回	発表				
第7回	発表				
第8回	発表				
第9回	発表				
第10回	発表				
第11回	発表				
第12回	発表				
第13回	発表				
第14回	発表				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
平川彰『仏典講座 八宗綱要』(大蔵出版、2004)、末木文美土『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996)、菘輪顕量『日本仏教史』(春秋社、2015)					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
水曜2限 (要予約、ookada@min.ac.jp)					
<b>【実務経験】</b>					
なし					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	日蓮学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01987] ゼミナール (桑名法晃)				
期 間	後期 (15回)	単 位 数	必修 (2)	種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko	
<b>【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】</b>					
日蓮聖人教学・日蓮教学史の文献を講読し、各受講生のテーマに沿い卒業論文を執筆するための指導をしていく。					
<b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</b>					
日蓮聖人教学・日蓮教学史の史料を読解する力、資料収集方法・先行研究の整理等、卒業論文を執筆するにあって必要となる力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業方法 (フィードバックの内容)】</b>					
テキストとして用いる文献を講読し、文章作成を行っていく。タブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
<b>【授業外学修の方法 (時間数)】</b>					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。特に事前の学修では、テキストとして用いる文献を読み分らない語句等について調べておくこと。					
<b>【成績評価 (方法・基準)】</b>					
レポート30%、発表30%、授業への積極的参加姿勢40%。					
<b>【授業計画 (各回の授業内容)】</b>					
第1回	ガイダンス				
第2回	テキスト講読 その1				
第3回	テキスト講読 その2				
第4回	テキスト講読 その3				
第5回	テキスト講読 その4				
第6回	テキスト講読 その5				
第7回	テキスト講読 その6				
第8回	テキスト講読 その7				
第9回	テキスト講読 その8				
第10回	テキスト講読 その9				
第11回	テキスト講読 その10				
第12回	テキスト講読 その11				
第13回	テキスト講読 その12				
第14回	発表				
第15回	まとめ				
<b>【教科書・参考書】</b>					
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。					
<b>【学生へのメッセージ】</b>					
ゼミナール から継続して資料を読み込んでいきます。					
<b>【オフィスアワー】</b>					
火曜日 1時限目と木曜日 5時限目					
<b>【実務経験】</b>					
日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職					